

H27-B-2 101.32~110.51m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
396	101.32	102.05	CM ほぼ未風化で、挟持物も分布しない。一部に密着度の低い割れ目も分布している。	101.32	102.05	CM ほぼ未風化で、挟持物も分布しない。一部に密着度の低い割れ目も分布している。	101.32	102.05	101.32~102.05m: CM ほぼ未風化で、挟持物も分布しない。一部に密着度の低い割れ目も分布している。	
397	102.05	104.65	CL 103.70m以上では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布。103.70m以下では硬さ「D」と軟質化が進んでいる。	102.05	104.65	CL 103.70m以上では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布。103.70m以下では硬さ「D」と軟質化が進んでいる。	102.05	104.65	102.05~104.65m: CL 103.70m以上では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布。103.70m以下では硬さ「D」と軟質化が進んでいる。	
398	102.05	102.41	約10m間隔で細かく密着度の低い中着割れ目が多い。	102.05	102.41	約10m間隔で細かく密着度の低い潜在割れ目が多い。	102.05	102.41	102.05~102.41m: 約10m間隔で細かく密着度の低い潜在割れ目が多い。	
399	102.41	102.94	硬さ「B」岩片主体。割れ目ぞいに1~3mm程度で薄く砂状化する。粘土土部は分布しない。	102.41	102.94	硬さ「B」岩片主体。割れ目ぞいに1~3mm程度で薄く砂状化する。粘土土部は分布しない。	102.41	102.94	102.41~102.94m: 硬さ「B」の岩片主体。割れ目ぞいに1~3mm程度で薄く砂状化する。粘土土部は分布しない。	
400	102.94	103.17	20~30° 割れ目ぞいに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」と軟質化する。	102.94	103.17	20~30° 割れ目ぞいに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」と軟質化する。	102.94	103.17	102.94~103.17m: 20~30° の割れ目ぞいに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」と軟質化する。	
401	103.17	103.70	割れ目ぞいの砂状化や挟持物の分布は認められないが、一部で密着度の低い中着割れ目が多い。	103.17	103.70	割れ目ぞいの砂状化や挟持物の分布は認められないが、一部で密着度の低い潜在割れ目が多い。	103.17	103.70	103.17~103.70m: 割れ目ぞいの砂状化や挟持物は認められないが、一部で密着度の低い潜在割れ目が多い。	
402	103.70	104.65	風化が進み岩片も含め全体が軟質化している。所々に幅1~2mm軟質な白色粘土を脈状に含んでいる。	103.70	104.65	風化が進み岩片も含め全体が軟質化している。所々に幅1~2mm軟質な白色粘土を脈状に含んでいる。	103.70	104.65	103.70~104.65m: 風化が進み、岩片も含め、全体が軟質化している。所々に幅1~2mmの軟質な白色粘土を脈状に含む。	
403	104.65	107.15	CM 104.14~104.19m間を除き、硬質で挟持物は殆んど分布しない。	104.65	107.15	CM 105.14~105.19m間を除き、硬質で挟持物は殆んど分布しない。	104.65	107.15	104.65~107.15m: CM 105.14~105.19m間を除き、硬質で挟持物は殆んど分布しない。	
404	104.14	104.19	上下端とも40° 割れ目に囲まれて薄く砂状~φ2~3mm細片化する。下端面に白色粘土のフィルムが付着。区間内全体にφ0.5mm以下と微細な黄鉄鉱が点在する。	105.14	105.19	上下端とも40° 割れ目に囲まれて硬質な砂状~φ2~3mm細片化する。下端面に白色粘土のフィルムが付着。区間内全体にφ0.5mm以下と微細な黄鉄鉱が点在する。	105.14	105.19	105.14~105.19m: 上下端とも40° の割れ目に囲まれて、硬質な砂状~径2~3mmに細片化する。下端面に白色粘土がフィルム状に付着。区間内全体に径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が点在する。	
405	105.70	105.83	割れ目が交差し、φ20~30mmに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほぼ未風化な面である。	105.70	105.83	割れ目が交差し、φ20~30mmに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほぼ未風化な面である。	105.70	105.83	105.70~105.83m、106.68~106.73m: 割れ目が交差し、径10~30mmに岩片化する。各割れ目には砂や粘土が付着していないほぼ未風化な面をもつ。	*記事内容がほぼ同じであるため、106.68~106.73mの記事を含めて記載した
406	106.21	106.81	中着割れ目が多いが密着度は高くないハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは既に開口割れ目化している。	-	-	-	106.21	106.81	106.21~106.81m: 中着割れ目が多くハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは開口割れ目化している。	
407	107.68	107.73	割れ目が交差し、φ10~20mmに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほぼ未風化な面である。	106.68	106.73	割れ目が交差し、φ10~20mmに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほぼ未風化な面である。	-	-	-	*上記と記事内容がほぼ同じであるためまとめ書きした
408	107.15	107.62	CL 割れ目ぞいにφ3~5mmと細片化する部分もあるが、砂状~粘土状挟持物は分布せず。ほぼ未風化な面である。面の一部は淡緑色化する。これは緑泥石化実質で粘土土は伴わない。	107.15	107.62	CL 割れ目ぞいにφ3~5mmと細片化する部分もあるが、砂状~粘土状挟持物は分布せず。ほぼ未風化な面である。面の一部は淡緑色化する。これは緑泥石化実質で粘土土は伴わない。	107.15	107.62	107.15~107.62m: CL 割れ目ぞいに径3~5mmに細片化する部分があるが、割れ目に砂状~粘土状の挟持物は分布せず。ほぼ未風化な面をもつ。面の一部は緑泥石化実質により淡緑色化するが、粘土土は伴わない。	
409	107.60	115.99	CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。110.10m~114.06m間は幅10~30mの間隔程度の低い中着割れ目も含んでいる。ほぼ未風化で、割れ目挟持物も殆んど分布しない。	107.62	115.99	CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。110.10m~114.06m間は幅10~30mの間隔程度の低い中着割れ目も含んでいる。ほぼ未風化で、割れ目挟持物も殆んど分布しない。109.00~110.10m間は、30~50° の割れ目主体。一部は交差して岩片状を呈する。	107.62	115.99	107.62~115.99m: CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。110.10~114.06m間は10~30mの間隔で密着度の低い潜在割れ目も含んでいる。ほぼ未風化で、割れ目挟持物も殆んど分布しない。109.00~110.10m間は、30~50° の割れ目が主体で、一部は交差して岩片状を呈する。	
410	108.57	108.60	40° 割れ目ぞいに幅1mm程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。	108.57	108.60	40° 割れ目ぞいに幅1mm程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。	108.57	108.60	108.57~108.60m: 40° の割れ目ぞいに幅1mm程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。	
411	110.40	110.51	白色化した「中着割れ目」ぞいに分離し、開口割れ目化している。	110.40	110.51	白色化した「中着割れ目」ぞいに分離し、開口割れ目化している。	110.40	110.51	110.40~110.51m: 白色化した中着割れ目ぞいに分離し、開口割れ目化している。	

H27-B-2 111.37~119.47m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事	
上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
412	111.37	111.37	75~80° 割れ目自体の一部で幅1~2mm砂状化、これに交差する30° 割れ目は切られている。	111.37	111.37	75~80° 割れ目 沿いの一部で幅1~2mm砂状化、これに交差する30° 割れ目は止められている。切れている。砂状化部の分布は連続性に乏しい。高角度割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られる。	111.37	111.37	111.37m:75~80° の割れ目沿いの一部で幅1~2mm砂状化、これに交差する30° の割れ目は止められている。砂状化部の分布は連続性に乏しい。高角度割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られる。	
413	112.41	112.44	5° 前後の割れ目自体に片状化。岩片は軟質化しない。	112.41	112.44	5° 前後の割れ目 沿いに片状化。岩片は軟質化しない。	112.41	112.44	112.41~112.44m:5° 前後の割れ目沿いに片状化するが、岩片は軟質化しない。	
414	-	-	-	113.56	113.60	アブライト脈を挟む、傾斜25°、幅4mm。花崗斑岩との境界は漸移的である。	113.56	113.60	113.56~113.60m:傾斜25°、幅4mmのアブライト脈を挟む。花崗斑岩との境界は漸移的である。	
415	113.63	113.81	白色の「中層割れ目」が5~10mm間隔で細かく分布。密度度の低いものも含まれる。	113.63	113.81	白色の「中層割れ目」が5~10mm間隔で細かく分布。密度度の低いものも含まれる。	113.63	113.81	113.63~113.81m:白色の潜在割れ目が5~10mm間隔で細かく分布。密度度の低いものも含む。	
416	114.37	115.70	緑色系色調に変化する。	-	-	-	-	-	114.37~115.70m:緑色化している。	
417	114.65	114.85	80~85° 割れ目の一部に鑛頭と厚さ0.5mm以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着。	114.65	114.85	80~85° 割れ目の一部に鑛頭と厚さ0.5mm以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着。割れ目は滑潤で凹凸しているが、割れ目のかみ合わせは良い。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	114.65	114.85	114.65m:80~85° の割れ目の一部に鑛頭と厚さ0.5mm以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着。割れ目は滑潤で凹凸しているが、割れ目のかみ合わせは良い。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	
418	115.33	115.70	暗緑色鉱物(緑泥石)がφ1~2mm斑点状~幅1m/m脈状に分布する。特に前者で分布が多い。	115.33	115.70	暗緑色鉱物(緑泥石)がφ1~2mm斑点状~幅1m/m脈状に分布する。特に前者で分布が多い。	115.33	115.70	115.33~115.70m:暗緑色鉱物(緑泥石)が径1~2mmの斑点状~幅1m/mの脈状に分布する。特に前者が多い。	
419	115.70	-	115.70m以降で橙色の正長石が多く露出。全体の色調が橙色に変化。	115.70	116.40	ベグマタイト、径1~10mm程度の橙色のかり長石、灰白色の長石、石英が多く露出。全体の色調が橙色に変化。	115.70	116.40	115.70~116.40m:ベグマタイト、径1~10mm程度の橙色のかり長石、灰白色の長石、石英が多く露出。全体の色調が橙色を呈する。	
420	115.99	116.49	OL 割れ目が細かく分布し、φ10~30mm主体に岩片化している。割れ目沿いの多くは幅1~3mmで砂状~細面片状化する。	115.99	116.49	OL 割れ目が細かく分布し、φ10~30mm主体に岩片化している。割れ目沿いの多くは幅1~3mmで砂状~細面片状化する。	115.99	116.49	115.99~116.49m:OL 割れ目が細かく分布し、径10~30mm主体に岩片化している。割れ目沿いの多くは幅1~3mmで砂状~細面片状化する。	
421	116.18	116.37	116.18~116.37mでは石英の露出が多く、全体が珪質となる。	-	-	-	-	-	116.18~116.37mでは石英の露出が多く、全体が珪質となる。	
422	116.49	119.47	CM 挟持物のない割れ目が多いが、一部で幅1~2mmで砂状化部や粘土部を挟む割れ目も分布する。また、割れ目交差部の一部ではφ5~10mm程度に細片状化する部分もある。	116.49	119.47	CM 挟持物のない割れ目が多いが、一部で幅1~2mmで砂状化部や粘土部を挟む割れ目も分布する。また、割れ目交差部の一部ではφ5~10mm程度に細片状化する部分もある。	116.49	119.47	116.49~119.47m:CM 挟持物のない割れ目が多いが、一部で幅1~2mmで砂状化部や粘土部を挟む割れ目も分布する。また、割れ目交差部の一部では径5~10mm程度に細片状化する部分もある。	
423	117.21	117.21	70° 割れ目に幅2mmで硬質な暗緑色鉱物脈(緑泥石)が断続的に分布する。その上端側約10mmは弱く風化し淡褐色化するが劣化は伴わない。	117.21	117.21	70° 割れ目に幅2mmで硬質な暗緑色鉱物脈(緑泥石)が断続的に分布する。その上端側約10mmは弱く風化し淡褐色化するが劣化は伴わない。	117.21	117.21	117.21m:70° の割れ目に幅2mmで硬質な暗緑色鉱物脈(緑泥石)が断続的に分布する。その上端側約10mmは弱く風化し淡褐色化するが劣化は伴わない。	
424	118.12	119.10	30° 前後と70~80° 割れ目が交差し、その一部ではφ5~10mm程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴わない。	118.12	119.10	30° 前後と70~80° 割れ目が交差し、その一部ではφ5~10mm程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴わない。	118.12	119.10	118.12~119.10m:30° 前後と70~80° の割れ目が交差し、一部では径5~10mm程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴わない。	
425	118.23	118.53	20~30° の「中層割れ目」が10~20mm間隔で同方向に分布。一部では密度度が低く開口割れ目化している。	118.23	118.53	20~30° の「中層割れ目」が10~20mm間隔で同方向に分布。一部では密度度が低く開口割れ目化している。	118.23	118.53	118.23~118.53m:20~30° の中層割れ目が10~20mm間隔で同方向に分布。一部では密度度が低く開口割れ目化している。	
426	119.09	120.79	地質名欄:Op	119.09	120.79	地質名欄:Ap	119.09	120.79	(地質名欄)アブライト	
427	-	-	-	119.09	120.79	アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。	119.09	120.79	119.09~120.79m:アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。	
428	119.47	119.47	40° 割れ目に幅1mm暗緑色粘土脈(緑泥石)はさむ。φ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱を伴う。	119.47	119.47	40° 割れ目に幅1mm暗緑色粘土脈(緑泥石)はさむ。φ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱を伴う。	119.47	119.47	119.47m:40° の割れ目に幅1mmの暗緑色粘土脈(緑泥石)を挟む。径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱を伴う。	

H27-B-2 119.47~122.89m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	適正化された記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
429	119.47	120.00	(変質欄)3ランク	119.47	120.00	(変質欄)2ランク	119.47	120.00	(変質欄)2ランク	-
430	119.47	120.00	CL 30~40° 割れ目がほぼ同方向に1~3cm間隔で分布する。割れ目自体に薄く砂状化するものが多い。	119.47	120.00	CL 30~40° 割れ目がほぼ同方向に1~3cm間隔で分布する。割れ目自体に薄く砂状化するものが多い。	119.47	120.00	119.47~120.00m: CL 30~40° の割れ目がほぼ同方向に1~3cm間隔で分布する。割れ目自体に薄く砂状化するものが多い。	-
431	119.75	119.88	幅1mm以下の緑灰~灰白色粘土を脈状に挟むことが多い。	119.75	119.88	幅1mm以下の緑灰~灰白色粘土を脈状に挟むことが多い。	119.75	119.88	119.75~119.88m: 幅1mm以下の緑灰~灰白色粘土を脈状に挟むことが多い。	-
432	-	-	堅硬 30~50° 割れ目がほぼ同方向に分布する。白い筋状の付着割れ目が多いが周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。一部で既に開口化している。割れ目挟在物は分布しない。	120.00	120.63	堅硬 30~50° 割れ目がほぼ同方向に分布する。白い筋状の付着割れ目が多いが周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。一部で既に開口化している。割れ目挟在物は分布しない。	120.00	120.63	120.00~120.63m: 堅硬 30~50° の割れ目がほぼ同方向に分布する。白い筋状の付着割れ目が多いが周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。一部で開口化している。割れ目に挟在物は分布しない。	-
433	120.63	120.65	破砕帯(せいせん断面120.65m)	120.63	120.65	破砕帯(最新活動面120.65m)	120.63	120.65	●120.63~120.65m: 破砕帯 120.63~120.65m: 粘土質状部(Hb) 上層12~32°で清曲して、下層32°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径3~10mmの岩片が20%程度含まれや軟質な「粘土質泥状」を呈する。色調はオリーブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ15~25mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	-
434	120.63	120.65	Hb 上層は12~32°で清曲して、下層32°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径3~10mmの岩片が20%程度含まれや軟質な「粘土質泥状」を呈する。色調はオリーブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ15~25mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	120.63	120.65	Hb 上層は12~32°で清曲して、下層32°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径3~10mmの岩片が20%程度含まれや軟質な「粘土質泥状」を呈する。色調はオリーブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ15~25mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	120.63	120.65	●120.63~120.65m: 破砕帯 120.63~120.65m: 粘土質状部(Hb) 上層12~32°で清曲して、下層32°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径3~10mmの岩片を計20%程度含む。やや軟質。オリーブ灰色を呈する。幅15~25mm。 120.65m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜32°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない。軟質。オリーブ灰色を呈する。幅1~3mm。	-
435	120.65	120.65	Hc-1 32°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。色調はオリーブ灰(2.5GY 5/1)。厚さ1~3mm。	120.65	120.65	Hc-1 32°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。色調はオリーブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ1~3mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	120.65	120.65	●120.63~120.65m: 破砕帯 120.63~120.65m: 粘土質状部(Hb) 上層12~32°で清曲して、下層32°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径3~10mmの岩片を計20%程度含む。やや軟質。オリーブ灰色を呈する。幅15~25mm。 120.65m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜32°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない。軟質。オリーブ灰色を呈する。幅1~3mm。	-
436	120.63	120.65	(岩線区分欄)D	120.63	120.65	(岩線区分欄)CM	120.63	120.65	(岩線区分欄)CMIに含める	-
437	120.65	121.03	堅硬、やや割れ目が多いが挟在物は分布しない。上端側は緑泥石化により緑灰色を呈する。劣化はない。白い筋状の付着割れ目は周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。	120.65	121.03	堅硬、やや割れ目が多いが挟在物は分布しない。上端側は緑泥石化により緑灰色を呈する。劣化はない。白い筋状の付着割れ目は周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。	120.65	121.03	120.65~121.03m: CM 堅硬、やや割れ目が多いが挟在物は分布しない。上端側は緑泥石化により緑灰色を呈する。劣化はない。白い筋状の付着割れ目は周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。	-
438	121.03	122.23	CH 堅硬、割れ目少なく、柱状~長柱状(コア長20cm以上)コアからなる。径1~3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点多く、色調は緑灰色を帯びる。	121.03	122.23	CH 堅硬、割れ目少なく、柱状~長柱状(コア長20cm以上)コアからなる。径1~3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点多く、色調は緑灰色を帯びる。	121.03	122.23	121.03~122.23m: CH 堅硬、割れ目少なく、柱状~長柱状(コア長20cm以上)コアからなる。径1~3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点多く、全体に緑灰色を帯びる。	-
439	122.23	122.42	(変質欄)3ランク (岩線区分欄)CL	122.23	122.42	(変質欄)2ランク (岩線区分欄)CM	122.23	122.42	(変質欄)2ランク (岩線区分欄)CMIに含める	-
440	122.23	122.42	CL 上位よりやや風化が進み、岩芯や割れ目の一部が褐色化する。白い筋状の付着割れ目もハンマー打撃で分離・細片化し易いものが多い。	122.23	122.42	CL 上位よりやや風化が進み、岩芯や割れ目の一部が褐色化する。白い筋状の付着割れ目もハンマー打撃で分離・細片化し易いものが多い。	122.23	122.42	122.23~122.42m: CL 上位より風化がやや進み、岩芯や割れ目の一部が褐色化する。白い筋状の付着割れ目もハンマーの打撃で分離・細片化し易いものが多い。	-
441	122.42	122.97	CM 堅硬であるが、一部でハンマー打撃で分離し易い付着割れ目も含む。割れ目は薄く褐色化するが挟在物は分布しない。径5~10mmの褐色の力長石英斑点が点在し、白濁化した長石は殆んど分布しない。	122.42	122.97	CM 堅硬であるが、一部でハンマー打撃で分離し易い付着割れ目も含む。割れ目は薄く褐色化するが挟在物は分布しない。径5~10mmの褐色の力長石英斑点が点在し、白濁化した長石は殆んど分布しない。	122.42	122.97	122.42~122.97m: CM 堅硬であるが、一部でハンマーの打撃で分離し易い付着割れ目も含む。割れ目は薄く褐色化するが、挟在物は分布しない。径5~10mmの褐色の力長石の斑点が点在し、白濁化した長石は殆んど分布しない。	-
442	-	-		122.30	122.89	高角度割れ目が連続する。	122.30	122.89	122.30~122.89m: 高角度割れ目が連続する。	-

H27-B-2 122.97~127.41m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	追記した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
443	122.97	133.41	CL 堅硬。風化や変質による劣化はないが、割れ目が多く、60~70°割れ目が同方向に1~5cm間隔で分布する。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。	122.97	123.41	CL 堅硬。風化や変質による劣化はないが、割れ目が多く、60~70°割れ目が同方向に1~5cm間隔で分布する。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。			122.97~123.41m:CL 堅硬。風化や変質による劣化はないが、割れ目が多く、60~70°の割れ目が同方向に1~5cm間隔で分布する。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	-	
444	122.97	123.41	(岩級区分欄)CL	122.97	123.41	(岩級区分欄)CM			区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。	(岩級区分欄)CM	-
445	133.41	125.38	CM 一部で密着度の低い割れ目や「中着割れ目」が分布し、ハンマーの強打で分離・細片化する(分離・細片化しないものもある)。 ほゞ未風化・未変質で長石の白濁化は肉眼では認められない。 全体にφ1~2mm暗緑灰色の緑泥石を斑点状に含み緑灰色を帯びる。	123.41	125.38	CM 一部で密着度の低い割れ目や「潜在割れ目」が分布し、ハンマーの強打で分離・細片化する(分離・細片化しないものもある)。 ほゞ未風化・未変質で長石の白濁化は肉眼では認められない。 全体にφ1~2mm暗緑灰色の緑泥石を斑点状に含み緑灰色を帯びる。			・顕微鏡正(133.41⇒123.41) ・表現の適正化(厚さ、mm) ・中着割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため適正化した。	123.41~125.38m:CM 一部で密着度の低い割れ目や潜在割れ目が分布し、ハンマーの強打で分離・細片化するものがある。ほゞ未風化・未変質で長石の白濁化は認められない。全体に径1~2mmの暗緑灰色の緑泥石を斑点状に含み緑灰色を帯びる。	-
446	124.30	124.30	124.30m付近でコアが片状化するが、これはコアチューブ引上げ時(人手的)に発生した乱れである。	-	-	-				124.30m付近は、コアチューブ引上げ時の擾乱によりコアが片状化する。	-
447	124.80	129.59	地質名欄Go	124.90	129.59	地質名欄Ap			・アフライトは周囲と異なる状況であるため追記した	(地質名欄)アフライト	-
448	-	-	-	124.90	129.59	アフライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。			・アフライトは周囲と異なる状況であるため追記した	124.90~129.59m:アフライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。	-
449	125.00	125.38	白い筋状の中着割れ目が多いが、周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。	-	-	-				125.00~125.38m:白い筋状の中着割れ目が多いが、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。	-
450	125.38	125.70	(岩級区分欄)CL	125.38	125.70	(岩級区分欄)CM			・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	(岩級区分欄)CMに含める	-
451	125.38	125.70	CL 密着度がきわめて低い割れ目や、中着割れ目が10mm程度の間隔で分布。ハンマーの強打で分離・細片化する。すでに開口化するものも多い。	125.38	125.70	CL 密着度がきわめて低い割れ目や、中着割れ目が10mm程度の間隔で分布。ハンマーの強打で分離・細片化する。すでに開口化するものも多い。			・表現の適正化(mm)	125.38~125.70m:CL 密着度が極めて低い割れ目や中着割れ目が10mm程度の間隔で分布。ハンマーの強打で分離・細片化する。開口化するものも多い。	-
452	125.38	125.38	50°割れ目径10mmは径3~5mmの硬質細片状化部。粘土、砂は伴わない。	125.38	125.38	50°割れ目径10mmは径3~5mmの硬質細片状化部。粘土、砂は伴わない。			・表現の適正化(径、mm、伴う)	125.38m:50°の割れ目径10mmで径3~5mmの硬質細片状を呈する。粘土や砂は伴わない。	-
453	125.70	126.25	CM 一部で密着度が低い割れ目や、中着割れ目を含む。 割れ目挟在物は分布しない。	-	-	-				125.70~126.25m:CM 一部で密着度が低い割れ目や中着割れ目を含む。割れ目に挟在物は分布しない。	-
454	126.25	127.00	変質欄3ランク	126.25	127.00	変質欄2ランク			・周囲と同様の変質の程度であるため変質のランクを2ランクに変更した	(変質欄)2ランク	-
455	126.25	127.41	CL 一部で50~60°割れ目径10mm前後に細片化~砂状化する。また厚さ1~2mmの緑灰、灰白色軟質粘土も含まれている。 硬さ(C)岩片主体部は灰緑色(7.5YR 6/2)で残留し、細片化~砂状化部はにじみ色(7.5YR 6/4)の色調で、全体では後者の色調が主体。 127.00m以降は挟在物は分布しなくなる。	126.25	127.41	CL 一部で50~60°割れ目径10mm前後に細片化~砂状化する。また厚さ1~2mmの緑灰、灰白色軟質粘土も含まれている。 硬さ(C)岩片主体部は灰緑色(7.5YR 6/2)で残留し、細片化~砂状化部はにじみ色(7.5YR 6/4)の色調で、全体では後者の色調が主体。 127.00m以降は挟在物は分布しなくなる。			・表現の適正化(径、mm、挟む) ・顕微鏡の修正(「色」の記載漏れ、助詞の記載漏れ)	126.25~127.41m:CL 一部で50~60°の割れ目径10mm前後に細片化~砂状化する。また、径1~2mmの緑灰~灰白色の軟質粘土も挟む。硬さ(C)の岩片主体部は灰緑色で残留し、細片化~砂状化部はにじみ色で、全体では後者の色調が主体。127.00m以降は挟在物は分布しない。	-

H27-B-2 127.41~128.97m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)					
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由						
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由						
456	127.41	127.48	破砕帯(主せん断面127.41m)	127.41	127.48	破砕部(最新活動面127.41m)	127.41	127.48	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一	●127.41~127.48m:破砕部 127.41m:粘土状部(Hc-1) 傾斜50°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片を含まない。軟質。灰白色を呈する。幅0.5~1mm。 127.41~127.48m:粘土混じり層状部(Hj) 127.41~127.48m:直線的。下端50~60°で湾曲して連続。径3~5mmに細片化した岩片からなり。岩片間には幅1~2mmの軟質粘土が脈状に分布する。岩片は径20μm以下で硬さEも少量含む。127.41mに主せん断面と同方向のせいにマンガン塩染を伴う。色調はにぶい黄褐色(10YR 7/4)。厚さ40~45mm。				
457	127.41	127.41	Hc-1 50°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片を含まない。軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(10YR 8/1)。厚さ0.5~1m/m。	127.41	127.41	Hc-1 50°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片を含まない。軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(10YR 8/1)。厚さ0.5~1mm。含まれる細粒部は断続的に分布し、連続性に正しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	127.41	127.48	・細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・表視の統一(ガウジ→Hc-1)を含むで表視。 ・表視の適正化(軟質→軟質、mm) ・表記の修正(「色」の記載漏れ)	・連続。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無。境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。				
458	127.41	127.48	Hj 上端50°で直線的。下端は50~60°で湾曲して連続。径3~5mm/mに細片化した岩片からなり。岩片間には幅1~2mmの軟質粘土が脈状に分布。岩片は径20μm以下で硬さEも少量含む。127.41mに主せん断面と同方向のせいにマンガン塩染を伴う。色調はにぶい黄褐色(10YR 7/4)。厚さ40~45mm/m。	127.41	127.48	Hj 上端50°で直線的。下端は50~60°で湾曲して連続。径3~5mmに細片化した岩片からなり。岩片間には幅1~2mmの軟質粘土が脈状に分布。岩片は径20μm以下で硬さEも少量含む。127.41mに主せん断面と同方向のせいにマンガン塩染を伴う。色調はにぶい黄褐色(10YR 7/4)。厚さ40~45mm。硬質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	127.41	127.48	・破砕部内物質。硬軟。細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・主せん断面は評価結果であるため記載しないこととし、上位のHc-1の粘土に変更した。 ・表視の適正化(湿い、mm。軟質→軟質、μm→せん断面) ・表記の修正(「色」の記載漏れ)	127.41	127.48	127.41	127.48	(岩級区分欄)CLに含める
459	127.41	127.48	(岩級区分欄)D	127.41	127.48	(岩級区分欄)CL	127.41	127.48	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	127.41	127.48	(岩級区分欄)CLに含める		
460	127.48	128.82	CL 40~60° 割れ目主体で一部で厚さ1mm以下の風化砂状部をばさむ。粘土はばさまない。	127.48	128.82	CL 40~60° 割れ目主体で一部で厚さ1mm以下の風化砂状部をばさむ。粘土はばさまない。	127.48	128.82	・表視の適正化(mm、挟む)	127.48	128.82	127.48~128.82m:CL 40~60°の割れ目が主体で、一部で幅1mm以下の風化砂状部を挟む。粘土は挟まない。		
461	127.82	127.83	上端60°、下端61° 割れ目に囲まれ、径2~3mmの破砕状細片を含む粗粒の中粒~粗粒砂状を呈する。粘土はばさまない。	127.82	127.83	上端60°、下端61° 割れ目に囲まれ、径2~3mmの破砕状細片を含む硬質の中粒~粗粒砂状を呈する。砂状部中の割れ目に定向配列は見られない。割れ目周囲の岩質に原岩組織が見られる。下位の別方向の割れ目にもマンガン汚染した面が見られる。	127.82	127.83	・追記した理由から破砕部ではないと判断して「破砕帯」を削除した。 ・表視の適正化(mm、挟む) ・表視の統一(固結→硬質) ・割れ目及び割れ目の状況について追記した	127.82	127.83	127.82~127.83m:上端60°、下端61°の割れ目に囲まれ、径2~3mmの細片を含む硬質の中粒~粗粒砂状を呈する。砂状部中の割れ目に定向配列は見られない。粘土は伴わない。割れ目周囲の岩質に原岩組織が見られる。下位の別方向の割れ目にもマンガン汚染した面が見られる。		
462	128.82	128.97	(岩級区分欄)D	128.82	128.97	(岩級区分欄)CL	128.82	128.97	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	128.82	128.97	(岩級区分欄)CLに含める		
463	128.82	128.97	破砕帯(主せん断面128.87m)	128.82	128.97	破砕部(最新活動面128.87m)	128.82	128.97	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一	128.82	128.97	●128.82~128.97m:破砕部 128.82~128.87m:砂混じり岩片状部(Hj) 上端30°で幅1~2mmの軟質緑灰色粘土層を伴い、下端83°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土は少ない。全体として「砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)。厚さ50~90mm。 128.87~128.88m:粗混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜63°で上下端とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒と岩片を20%程度含む。軟質、暗緑色を呈する。幅3~5mm。 128.88~128.97m:粘土・砂混じり岩片状部(Hj) 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。60~70°と10~30°の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化。岩片間が緑褐色粘土層や薄く砂状化する「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)。厚さ60mm。		
464	128.82	128.87	Hj 上端30° 幅1~2mm軟質緑灰色粘土層で、下端63°でいずれも直線的に連続。主せん断面に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土は少ない。全体として「砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)。厚さ50~90mm。	128.82	128.87	Hj 上端30° 幅1~2mm軟質緑灰色粘土層で、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土は少ない。全体として「砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)。厚さ50~90mm。やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	128.82	128.87	・硬軟。細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・主せん断面は評価結果であるため記載しないこととし、下位のHc-2の粘土に変更した。 ・表視の適正化(mm) ・表記の修正(「色」の記載漏れ)	128.82	128.87	128.82~128.87m:砂混じり岩片状部(Hj) 上端30°で幅1~2mmの軟質緑灰色粘土層を伴い、下端83°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土は少ない。全体として「砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)。厚さ50~90mm。		
465	128.87	128.88	Hc-2 63°で上下端とも直線的に連続。径1~3mm石英粒と岩片を20%程度含む。軟質。暗緑色(5G 4/1)。厚さ3~5mm。	128.87	128.88	Hc-2 63°で上下端とも直線的に連続。径1~3mm石英粒と岩片を20%程度含む。軟質。暗緑色(5G 4/1)。厚さ3~5mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られない。	128.87	128.88	・硬軟。細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・表視の適正化(mm) ・表記の修正(「色」の記載漏れ)	128.87	128.88	128.88~128.97m:粘土・砂混じり岩片状部(Hj) 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。60~70°と10~30°の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化。岩片間が緑褐色粘土層や薄く砂状化する「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)。厚さ60mm、やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。		
466	128.88	128.97	Hj 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。60~70°と10~30°の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化。岩片間が緑褐色粘土層や薄く砂状化する「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)。厚さ60mm。	128.88	128.97	Hj 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。60~70°と10~30°の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化。岩片間が緑褐色粘土層や薄く砂状化する「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)。厚さ60mm、やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	128.88	128.97	・硬軟。細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・表視の適正化(mm) ・表記の修正(「色」の記載漏れ)	128.88	128.97	128.88~128.97m:粘土・砂混じり岩片状部(Hj) 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。60~70°と10~30°の割れ目が多く、径5~15mmに岩片化。岩片間が緑褐色粘土層や薄く砂状化する「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)。厚さ60mm。		

H27-B-2 128.97~133.75m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度		記事
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
467	128.97	129.95	CL 風化進み割れ目ぞいに砂状・細片状化する。	-	-	128.97	129.95	128.97~129.95m:CL	-
468	129.11	129.26	CM 下端側の一部で割れ目ぞいに幅1~3mmの砂を挟むが、これ以外では挟在物は分布しない。	129.11	129.26	129.11	129.26	129.11~129.26m:風化が進み、割れ目ぞいに砂状~細片状化する。マンガン汚染が見られる。	-
469	129.95	130.79	CM 下端側の一部で割れ目ぞいに幅1~3mmの砂を挟むが、これ以外では挟在物は分布しない。	129.95	130.79	129.95	130.79	129.95~130.79m:CM 下端側の一部で割れ目ぞいに幅1~3mmの砂を挟むが、これ以外に挟在物は分布しない。	-
470	-	-	-	129.95	130.22	129.95	130.22	129.95~130.22m:アプライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。	-
471	129.95	130.22	(地質名欄)Op	129.95	130.22	129.95	130.22	(地質名欄)アプライト	-
472	130.58	130.58	80°とこれと交差する40~50°の割れ目ぞいで幅1~3mm風化砂を挟む。粘土は伴わない。また80°の割れ目は交差する一部の割れ目を切っている。	130.58	130.58	130.58	130.58	130.58m:80°とこれと交差する40~50°の割れ目ぞいで幅1~3mmの風化砂を挟む。粘土は伴わない。また、80°の割れ目は交差する一部の割れ目を止めている場合と換助する場合がある。割れ目及び換助の状況について追記した。 表現の適正化(沿い、挟む、伴う、mm)	-
473	130.79	131.95	CL 割れ目ぞいに風化が進み砂状化することが多い。また部分的に凝結灰~灰白色粘土細脈(幅1mm以下)を伴う。	130.79	131.95	130.79	131.95	130.79~131.95m:CL 割れ目ぞいに風化が進み砂状化することが多い。また、部分的に幅1mm以下の凝結灰~灰白色粘土細脈を伴う。	-
474	131.79	131.79	55°割れ目上端側は厚10~15mm砂状化。灰白色粘土細脈も伴う。	131.79	131.79	131.79	131.79	131.79m:55°の割れ目上端側は幅10~15mmで砂状化する。灰白色粘土細脈も伴う。	-
475	-	-	-	131.79	134.23	131.79	134.23	131.79~134.23m:アプライト 上端は55°の割れ目、下端は破砕部となっている。	-
476	131.79	133.75	(地質名欄)Op	131.79	133.75	131.79	133.75	(地質名欄)アプライト	-
477	131.95	132.89	D 風化で締った砂状化が拡大し、φ5~20mmの岩片を含む砂礫状を呈する。砂状部中には灰白色主体で、粘土化部や幅1~2mmの細脈として分布。	131.95	132.89	131.95	132.89	131.95~132.89m:D 風化で硬質な砂状化が拡大し、径5~20mmの岩片を含む砂礫状を呈する。砂状部中には灰白色主体の粘土化部が幅1~2mmの細脈として分布。	-
478	132.41	132.60	硬さ「C」の岩片状コア。	-	-	132.41	132.60	132.41~132.60m:硬さ「C」の岩片状コア。	-
479	131.95	132.18	硬さ「G」岩片のみ採取され、風化砂状部は掘削時に流失したものと推定される。	-	-	131.95	132.41	131.95~132.18mと132.32~132.41mは硬さ「G」の岩片のみ採取され、風化砂状部は掘削時に流失したものと推定される。	記事内容が同じであるため、132.32~132.41mの深度も含めて記載した。
480	131.95	132.89	(変質欄)3ランク	131.95	132.89	131.95	132.89	(変質欄)2ランク	-
481	132.32	132.41	硬さ「G」岩片のみ採取され、風化砂状部は掘削時に流失したものと推定される。	-	-	-	-	-	上記にまとめ書きしたため記載しない
482	132.89	133.24	CL 一部の割れ目ぞいは厚さ1~2mm程度に砂状化した砂を挟む。	132.89	133.24	132.89	133.24	132.89~133.24m:CL 一部の割れ目ぞいは幅1~2mm程度で砂状化の砂を挟む。	-
483	133.15	133.24	一部で砂状化が拡大している。	-	-	133.15	133.24	133.15~133.24m:一部で砂状化が拡大している。	-
484	133.24	133.49	D 砂状化が拡大し、締った砂状~砂礫状を呈する。変質は弱い。	133.24	133.49	133.24	133.49	133.24~133.49m:D 砂状化が拡大し、硬質な砂状~砂礫状を呈する。変質は弱い。	-
485	133.24	133.49	(岩級区分欄)D	133.24	133.49	133.24	133.49	(岩級区分欄)CLに含める	-
486	133.49	133.76	CL 20~30°と60~70°の割れ目が交差し、割れ目が多くなっている。	133.49	133.75	133.49	133.75	133.49~133.75m:CL 20~30°と60~70°の割れ目が交差し、割れ目が多くなる。	-

H27-B-2 133.75~134.77m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	適定した記事内容				
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
487	133.75	133.92	破砕帯(主せん断面133.75m)	133.75	133.92	破砕部(最新活動面133.75m)	133.75	133.92	・用箱の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一	●133.75~133.92m:破砕部 133.75m:粘土状部(Hc-1) 傾斜45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。 色調は明緑灰色(10G 7/1)。厚さ0.5~1mm/m	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。		
488	133.75	133.75	Hc-1 45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。 色調は明緑灰色(10G 7/1)。厚さ0.5~1mm/m	133.75	133.75	Hc-1 45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。 色調は明緑灰色(10G 7/1)。厚さ0.5~1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	133.75	133.75	・表現の統一(ガウジ→Hc-1)を含んで表現 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質、mm) ・脇記の修正(「色」の記載漏れ)	●133.75~133.92m:粘土質細粒状部(Hc) 上端45°で直線的に、下端35°で裏打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」の岩片を20~30%含む、やや軟質。硬さ「D」岩片中には直線的なせん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰色(10G 6/1)。厚さ30~40mm。 上端35°、下端30°でともに裏打って連続。大半が粘土化した径5~10mmの岩片で、岩片間は幅1~2mmの灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布する。上端側が緑灰色、下端側がオリーブ灰色を呈する。幅100mm。			
489	133.75	133.80	Hb 上端45°で直線的に、下端35°で裏打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な「硬質粘土状」を呈する。硬さ「D」岩片中には主せん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰色(10G 6/1)。厚さ30~40mm/m	133.75	133.80	Hb 上端45°で直線的に、下端35°で裏打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な「粘土質硬塊」を呈する。硬さ「D」岩片中には直線的なせん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰色(10G 6/1)。厚さ30~40mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	133.75	133.80	・硬主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・壁を含まないやや軟質であるため硬軟を変更した ・主せん断面は評価結果であるため記載しないこととし、直線的なせん断面に変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm) ・脇記の修正(「色」の記載漏れ)				
490	133.80	133.92	H 上端35°、下端50°でともに裏打って連続。大半が粘土化した径5~10mmの岩片で、岩片間は幅1~2mmの灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は上端側が緑灰色(10G 6/1)、下端側がオリーブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ100mm/m	133.80	133.92	H 上端35°、下端50°でともに裏打って連続。大半が粘土化した径5~10mmの岩片で、岩片間は幅1~2mmの灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は上端側が緑灰色(10G 6/1)、下端側がオリーブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ100mm。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	133.75	133.92	・表現の適正化(mm) ・硬軟、原岩組織の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・脇記の修正(「色」の記載漏れ)	(岩級区分欄)CLに含める	-		
491	133.75	133.92	(岩級区分欄)D	133.75	133.92	(岩級区分欄)CL	133.75	133.92	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	133.92	134.15	133.92~134.15m、硬さ「D」主体	-
492	133.92	134.15	硬さ「C」主体	133.92	134.15	硬さ「D」主体	133.92	134.15	・コアの硬さ値と整合しないため、コアに合わせて変更した				
493	134.15	134.23	破砕帯(主せん断面134.15m)	134.15	134.23	破砕部(最新活動面134.15mか134.19mの可能性もある)	134.15	134.23	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の可能性のある深度を追記した	●134.15~134.23m:破砕部 134.15~134.19m:粘土状部(Hc-1) 傾斜65°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。下端側に径0.5mm以下の黄鉄鉱が点在する。色調は上端側がオリーブ灰色(2.5GY 5/1)、中央・明オリーブ灰色(2.5GY 7/1)、下端・暗オリーブ灰色(2.5GY 4/1)で3色の縞状模様を呈する。厚さ20mm/m	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。		
494	134.15	134.19	Hc-1 75°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。下端側に径0.5mm以下の黄鉄鉱が点在する。色調は上端側がオリーブ灰色(2.5GY 5/1)、中央・明オリーブ灰色(2.5GY 7/1)、下端・暗オリーブ灰色(2.5GY 4/1)で3色の縞状模様を呈する。厚さ20mm/m	134.15	134.19	Hc-1 65°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。下端側に径0.5mm以下の黄鉄鉱が点在する。色調は上端側がオリーブ灰色(2.5GY 5/1)、中央・明オリーブ灰色(2.5GY 7/1)、下端・暗オリーブ灰色(2.5GY 4/1)で3色の縞状模様を呈する。厚さ20mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	134.15	134.19	・コアに合わせて傾斜角を変更した ・表現の適正化(mm) ・表現の統一(ガウジ→Hc-1)を含んで表現 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・脇記の修正(「色」の記載漏れ)	●134.19~134.23m:粘土混じり岩片状部(H) 上端65°で直線的に、下端はコアが砕けているため不明(50°の可能性あり)。径5~20mmの岩片状に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着するため「粘土混じり岩片状」を呈すると推定される。色調はオリーブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ30mm以上。			
495	134.19	134.23	H 上端75°で直線的に、下端はコアが砕けているため不明(50°の可能性あり)。径5~20mmの岩片状に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着するため「粘土混じり岩片状」を呈すると推定される。色調はオリーブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ30mm以上。	134.19	134.23	H 上端65°で直線的に、下端はコアが砕けているため不明(50°の可能性あり)。径5~20mmの岩片状に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着するため「粘土混じり岩片状」を呈すると推定される。色調はオリーブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ30mm以上。 含まれる岩片は硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は連続割れのため不明。	134.19	134.23	・コアに合わせて傾斜角を変更した ・表現の適正化(mm) ・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・脇記の修正(「色」の記載漏れ)				
496	134.15	134.23	(岩級区分欄)D	134.15	134.23	(岩級区分欄)CL	134.15	134.23	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	134.15	134.23	(岩級区分欄)CLに含める	-
497	134.23	134.65	(実質欄)3ランク	134.23	134.65	(実質欄)2ランク	134.23	134.65	・周囲と比べて実質の程度が軽い実質のランクを2ランクに変更した	134.23	134.65	(実質欄)2ランク	-
498	134.23	134.77	CL 暗緑灰軟質(ドレライト)下盤側貫入境界直下部である。割れ目はやや多いが劣化は伴わない。	134.23	134.77	CL アブライト下盤側貫入境界直下部である。割れ目はやや多いが劣化は伴わない。	134.23	134.77	・ドレライトではなくアブライトであるため変更した ・下盤側が必ずしも下盤とは限らないため下盤に変更した ・表現の適正化(やや、伴う)	134.23	134.77	134.23~134.77m:CL アブライト下盤境界の直下部である。割れ目はやや多いが劣化は伴わない。	-

H27-B-2 134.23~145.65m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		適正化の記事内容
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
499	134.23	134.33	D ₀ とG ₀ が混在した岩相を呈する。色も緑灰色。	134.23	134.33	A ₀ とG ₀ が混在した岩相を呈する。色も緑灰色。	・DレイトではなくAフライトであるため変更した	134.23	134.33	134.23~134.33m: アフライトと花崗斑岩が混在した岩相を呈する。緑灰色を呈する。
500	134.77	135.34	D 土砂状~φ10mm細岩片状部が主体	134.77	135.34	D 土砂状~φ10mm細岩片状部が主体	・表現の適正化(mm)	134.77	135.34	134.77~135.34m: D土砂状~φ10mmの細岩片状部が主体。
501	135.34	145.65	CL 硬さ「C」を主体とした割れ目発達部。 硬さ「B」は上端の135.34~136.50mに小分布。 一部で密着度の低い中着割れ目を含んでいる。 硬さ「E」は割れ目沿いに風化が広がってφ5~10mmの岩片を含む砂礫状を呈し、135.50~136.64m、137.44~137.60m、139.87~140.04mにコア長15cm前後で分布する。	135.34	145.65	CL 硬さ「C」を主体とした割れ目発達部。 硬さ「B」は上端の135.34~136.50mに小分布。 一部で密着度の低い潜在割れ目を含んでいる。 硬さ「E」は割れ目沿いに風化が広がってφ5~10mmの岩片を含む砂礫状を呈し、135.50~136.64m、137.44~137.60m、139.87~140.04mにコア長15cm前後で分布する。	・表現の適正化(沿い mm) ・中着割れ目は認められず。潜在割れ目が認められたため適正化した	135.34	145.65	135.34~145.65m: CL硬さ「C」を主体とした割れ目発達部。硬さ「B」は135.34~136.50mに小さく分布。一部で密着度の低い潜在割れ目を含む。136.50~136.64m、137.44~137.60m、139.87~140.04m間は、コア長15cm前後で、割れ目沿いに風化が広がってφ5~10mmの岩片を含む砂礫状を呈し、硬さ「E」となる。
502	136.40	-	136.40m以深でφ2~3mmの暗緑灰色。緑泥石斑点が点在する。	136.40	-	136.40m以深でφ2~3mmの暗緑灰色。緑泥石斑点が点在する。	・表現の適正化(mm)	136.40	-	136.40m以深はφ2~3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点が点在する。
503	136.54	136.84	35° 幅10~15mでアフライトがφ5mm前後で砕けて分布。両境界部も含め粘土は伴わない。	136.54	136.84	35° 幅10~15mでアフライトがφ5mm前後で砕けて分布。両境界部も含め粘土は伴わない。	・表現の適正化(伴う mm) ・崩記の修正(m⇒mm)	136.54	136.84	136.54m: 35°で幅10~15mのアフライトがφ5mm前後で砕けて分布。両境界部も含め粘土は伴わない。
504	137.44	137.53	φ5~10mm破砕状の細礫主体。	137.44	137.53	φ5~10mm破砕状の細礫主体。連続する細粒部は伴わない。	・初生的な割れ目の姿勢が見られるため破砕による細礫状ではなく、細礫間の基質が認められないためコアチューブ引き上げ部の誤りによるものと判断して「破砕状」を削除した ・含まれる細粒部について追記した ・表現の適正化(mm)	137.44	137.53	137.44~137.53m: φ5~10mmの細礫主体。連続する細粒部は伴わない。
505	137.53	137.60	砕った砂状部も含む。	137.53	137.60	硬質な砂状部も含む。	・表現の適正化(砕った⇒硬質)	137.53	137.60	137.53~137.60m: 硬質な砂状部を含む。
506	137.68	137.68	色調が変化。	-	-	-	-	-	-	・色調確から読み取れるため記載しない
507	-	137.68	137.68m以深は橙色を帯びる。これはカリ長石が多いため。	-	-	-	-	-	-	-
508	137.68	-	137.68m以深は淡緑灰色を帯び、これは緑泥石を多く含むためと推定される。	-	-	-	-	-	-	-
509	-	-	-	137.82	137.97	弱い変質を受け、砂~細礫状を呈する。やや軟質。	・変質を受けた砂~細礫状部は周囲と異なる状態であるため追記した	137.82	137.97	137.82~137.97m: 弱い変質を受け、やや軟質な砂~細礫状を呈する。
510	138.00	138.30	割れ目の一部は砂状化し、厚1~2mmの灰白色粘土を層状に伴うことがある。	138.00	138.30	割れ目の一部は砂状化し、幅1~2mmの灰白色粘土を層状に伴うことがある。	・表現の適正化(厚⇒幅, mm)	138.00	138.30	138.00~138.30m: 割れ目の一部は砂状化し、幅1~2mmの灰白色粘土を層状に伴うことがある。
511	-	-	-	138.40	139.20	アフライト 上下端とも割れ目で花崗斑岩と境される。	・周囲に比べて既露を深ほどと含まないためアフライトに変更した	138.40	139.20	138.40~139.20m: アフライト上下端とも割れ目で花崗斑岩と境される。
512	138.40	139.20	(地質名欄) G ₀	138.40	139.20	(地質名欄) A ₀	・上記の変更に伴い、地質名を変更した	138.40	139.20	(地質名欄) アフライト
513	138.75	138.75	80° 割れ目に厚さ1mmの方解石脈を含む。この脈は138.67m~38° 割れ目で切られている。	138.75	138.75	80° 割れ目に厚さ1mmの方解石脈を含む。この脈は138.67m~38° 割れ目で切られている。	・方解石脈は直線的に連続しているものではなく不規則に分布する。 38° 割れ目付近でも方解石脈は屈曲しており切られているわけではないため38° 割れ目との関係の記載を削除した ・表現の適正化(挟む, mm) ・割れ目及び周辺の状況について追記した	138.75	138.75	138.75m: 80°の割れ目に幅1mmの方解石脈を挟む。
514	139.67	139.67	75° 割れ目の一部が厚さ5mm程度砂状化。	139.67	139.67	75° 割れ目の一部が厚さ5mm程度砂状化。	・表現の適正化(mm)	139.67	139.67	139.67m: 75°の割れ目の一部が幅5mm程度砂状化する。
515	139.87	140.04	30°と80° 割れ目が細かく交差し、φ5~10mmの細礫状~粗粒砂状に砕けている。粘土は殆んど伴わない。	139.87	140.04	30°と80° 割れ目が細かく交差し、φ5~10mmの細礫状~粗粒砂状に砕けている。粘土は殆んど伴わない。	・表現の適正化(伴う, mm)	139.87	140.04	139.87~140.04m: 30°と80°の割れ目が細かく交差し、φ5~10mmの細礫状~粗粒砂状に砕ける。粘土は殆んど伴わない。
516	140.04	145.65	厚さ10cmを超える砂礫状風化部は分布しないが、割れ目厚さに厚さ1~5mm程度にφ1~3mmに砂状~片状化する割れ目を多く含む。割れ目は密着度の低い「中着割れ目」が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずか。	140.04	145.65	厚さ10cmを超える砂礫状風化部は分布しないが、割れ目厚さに厚さ1~5mm程度にφ1~3mmに砂状~片状化する割れ目を多く含む。割れ目は密着度の低い「潜在割れ目」が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずか。	・表現の適正化(沿い, mm) ・中着割れ目は認められず。潜在割れ目が認められたため適正化した	140.04	145.65	140.04~145.65m: 幅10cmを超える砂礫状の風化部は分布しないが、割れ目沿いに幅1~5mm程度で径1~3mmに砂状~片状化する割れ目を多く含む。割れ目は密着度の低い潜在割れ目が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずかである。

H27-B-2 141.10~148.01m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			適正化した記事内容		
517	141.10	141.18	40° 割れ目ぞい砂状化。φ5~10mm硬質岩片(硬さ「C」)も多く残留している。	141.10	141.18	40° 割れ目ぞい砂状化。φ5~10mm硬質岩片(硬さ「C」)も多く残留している。	141.10	141.18	141.10~141.18m:40°の割れ目ぞいに砂状化する。径5~10mmの硬質岩片(硬さ「C」)も多く残留している。	-
518	-	-	-	141.35	141.96	アフライト 上下端とも機械割れのため不明	141.35	141.96	141.35~141.96m:アフライト 上下端とも機械割れのため不明。	-
519	141.35	141.96	(地質名欄)Gp	141.35	141.96	(地質名欄)Ap	141.35	141.96	(地質名欄)アフライト	-
520	141.96	142.23	互いにほぼ直交する60°系と30°系の割れ目が細かく交差し、φ5~10mm主体に細片化している。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部厚さ1~2mm程度に砂状化。 粘土は伴わない。	141.96	142.23	互いにほぼ直交する60°系と30°系の割れ目が細かく交差し、φ5~10mm主体に細片化している。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部厚さ1~2mm程度に砂状化。 粘土は伴わない。	141.96	142.23	141.96~142.23m:互いにほぼ直交する60°と30°の割れ目が細かく交差し、径5~10mm主体に細片化する。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部幅1~2mm程度で砂状化する。粘土は伴わない。	-
521	142.91	144.90	割れ目間隔は上下位に比べやや広くなるが、密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。	142.91	144.90	割れ目間隔は上下位に比べやや広くなるが、密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。	142.91	144.90	142.91~144.90m:割れ目間隔は上下位に比べやや広くなるが、密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。	-
522	143.57	143.70	上端60°、下端70°割れ目ぞいに緑泥石化強く緑灰色を呈する。 粘土化は殆んど伴わないが、φ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱と60°、厚さ5~10mm石英を脈状に伴う。	143.57	143.70	上端60°、下端70°割れ目ぞいに緑泥石化強く緑灰色を呈する。 粘土化は殆んど伴わないが、φ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱と60°、厚さ5~10mm石英を脈状に伴う。	143.57	143.70	143.57~143.70m:上端60°、下端70°の割れ目ぞいに緑泥石化が強く、緑灰色を呈する。粘土化は殆んど伴わないが、径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱と60°で幅5~10mmの石英を脈状に伴う。	-
523	145.65	148.26	D 大半が割れ目ぞいに風化が拡大し、壊れた砂状を呈し、φ5~20mmで残留する岩片も含め、砂礫状~礫質砂状を呈する。一部で少量ながら灰白色~暗緑灰色粘土が脈状に分布。	145.65	148.26	D 大半が割れ目ぞいに風化が拡大し、礫質な砂状を呈し、φ5~20mmで残留する岩片も含め、砂礫状~礫質砂状を呈する。一部で少量ながら灰白色~暗緑灰色粘土が脈状に分布。	145.65	148.26	145.65~148.26m:D 大半が割れ目ぞいに風化が拡大し、礫質な砂状を呈し、径5~20mmで残留する岩片も含め、砂礫状~礫質砂状を呈する。一部で灰白~暗緑灰色粘土が脈状に分布する。	-
524	145.65	146.00	(風化欄)δランク (変質欄)βランク (岩級区分欄)D	145.65	146.00	(風化欄)αランク (変質欄)αランク (岩級区分欄)CL	145.65	146.00	(風化欄)αランク (変質欄)αランク (岩級区分欄)CL	-
525	145.74	146.00	(コアの硬さ欄)Eランク	145.74	146.00	(コアの硬さ欄)Dランク	145.74	146.00	(コアの硬さ欄)Dランク	-
526	145.74	148.01	145.74~146.00m、146.91~147.50mは硬さ「D」主体の、147.81~148.01mは硬さ「C」の各々、中右的に分布	-	-	-	145.74	148.01	145.74~146.00m、146.91~147.50mは硬さ「D」主体の、147.81~148.01mは硬さ「C」のコアが中右的に分布する。	-
527	146.65	146.91	深度と共に残留する岩片量が増加する	-	-	-	146.65	146.91	146.65~146.91m:深度と共に残留する岩片量が増加する。	-
528	146.91	147.50	硬さ「D」岩片主体であるが割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。	146.91	147.50	硬さ「D」岩片主体であるが割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。	146.91	147.50	146.91~147.50m:硬さ「D」の岩片主体であるが、割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。	-
529	146.91	147.65	(コアの硬さ欄)Eランク (岩級区分欄)D	146.91	147.65	(コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL	146.91	147.65	(コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL	-
530	146.91	148.26	(風化欄)δランク (変質欄)βランク	146.91	148.26	(風化欄)αランク (変質欄)αランク	146.91	148.26	146.91~148.26m間も含めてCL級に変更した。	-
531	147.00	147.65	(風化欄)δランク (変質欄)βランク	147.00	147.65	(風化欄)αランク (変質欄)αランク	147.00	147.65	147.00~147.65m:周囲と比べての風化、変質の程度が弱いため風化、変質のランクを変更した。	-
532	-	-	-	147.50	147.82	上下端55°の割れ目の間は、一部砂状化を呈する。	147.50	147.82	147.50~147.82m:上下端55°の割れ目の間は、一部砂状化を呈する。	-
533	147.65	147.65	55°割れ目に厚さ1~2mm暗緑灰色緑泥石脈を挟む。砂状~シルト状化している。	147.65	147.65	55°割れ目に厚さ1~2mm暗緑灰色緑泥石脈を挟む。砂状~シルト状化している。	147.65	147.65	147.65m:55°の割れ目に幅1~2mmの暗緑灰色緑泥石脈を挟む。砂状~シルト状化する。	-
534	147.81	148.01	硬さ「C」と硬質で残留。割れ目は多いが挟在物は分布しない。	-	-	-	147.81	148.01	147.81~148.01m:硬さ「C」のコアが残留。割れ目は多いが、挟在物は分布しない。	-

H27-B-2 148.26~151.88m

記事	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度		記事
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
535	148.28	149.19	CL 上端55°、下端50°の両者ほぼ同方向に割れ目で囲まれる。	148.26	149.19	CL 上端55°、下端50°の両者ほぼ同方向に割れ目で囲まれる。	148.26	149.19	148.26~149.19m:CL 上端55°、下端50°のほぼ同方向の割れ目で囲まれる。
536	148.68	148.68	50° 厚1~3mm/層緑灰色砂状~シルト状の緑泥石脈をはさむ。 同層は縦細(φ0.1mm/m)のセリサイトを少量伴う。	148.68	148.68	50° 幅1~3mm層緑灰色砂状~シルト状の緑泥石脈を挟む。 同層は縦細(φ0.1mm)のセリサイトを少量伴う。	148.68	148.68	148.68m:50°で幅1~3mmの層緑灰色砂状~シルト状の緑泥石脈を挟む。同層は径0.1mmの縦細なセリサイトを少量伴う。
537	148.84	-	148.84m以深、割れ目ぞいに厚1~2mmで砂状化する部分がある。	148.84	-	148.84m以深、割れ目ぞいに幅1~2mmで砂状化する部分がある。	148.84	-	148.84m以深、割れ目ぞいに幅1~2mmで砂状化する部分がある。
538	149.19	149.67	D 割れ目ぞいに風化が拡大し砕けた砂状を呈する。岩片はφ10mm前後の硬さCで残留し、砂塵状を呈する。 粘土はわずかであるが、灰白色粘土が点在する。下端の149.67mは40° 厚さ1mm層緑灰色の砂状~シルト状で緑泥石脈をはさむ。	149.19	149.67	D 割れ目ぞいに風化が拡大し硬質な砂状を呈する。岩片はφ10mm前後の硬さCで残留し、砂塵状を呈する。 粘土はわずかであるが、灰白色粘土が点在する。下端の149.67mは40° 厚さ1mm層緑灰色の砂状~シルト状で緑泥石脈を挟む。	149.19	149.67	149.19~149.67m:D 割れ目ぞいに風化が拡大し硬質な砂状を呈する。岩片は径10mm前後の硬さCで残留し、砂塵状を呈する。灰白色粘土がわずかに点在する。下端の149.67mは40°で幅1mmの層緑灰色砂状~シルト状の緑泥石脈を挟む。
539	149.19	149.67	(岩級区分欄)D	149.19	149.67	(岩級区分欄)CL	149.19	149.67	(岩級区分欄)CLに含める
540	-	-	-	149.41	149.41	34°の割れ目に幅1mmの緑灰色粘土挟む。	149.41	149.41	149.41m:34°の割れ目に幅1mmの緑灰色粘土を挟む。
541	149.67	152.10	CL 硬さ「C」と「D」の岩片からなる。	-	-	-	149.67	152.10	149.67~152.10m:CL 硬さ「C」と「D」の岩片からなる。
542	149.67	150.22	硬さCで割れ目の一部に砂などを挟む。	149.67	150.22	硬さ「C」で割れ目の一部に砂などを挟む。	149.67	150.22	149.67~150.22m:硬さ「C」で割れ目の一部に砂などを挟む。
543	150.22	150.52	上下よりも変質し硬さDに軟質化している。 下端の150.52mは40° 厚1~2mmで砂~シルト状の緑泥石脈、縦細な黄鉄鉱を伴う。	150.22	150.52	上下よりも変質し硬さDに軟質化している。 下端の150.52mは40° 幅1~2mmで砂~シルト状の緑泥石脈、縦細な黄鉄鉱を伴う。	150.22	150.52	150.22~150.52m:上下よりも変質し硬さDに軟質化している。下端の150.52mは40°で幅1~2mmの砂~シルト状の緑泥石脈や縦細な黄鉄鉱を伴う。
544	150.22	150.52	(変質欄)3ランク	150.22	150.52	(変質欄)2ランク	150.22	150.52	(変質欄)2ランク
545	150.52	152.10	硬さCで、一部で割れ目ぞいに風化するが縦細な風化は弱く、割れ目挟在物も殆んど分布しない。	150.52	152.10	硬さCで、一部で割れ目ぞいに風化するが縦細な風化は弱く、割れ目挟在物も殆んど分布しない。	150.52	152.10	150.52~152.10m:硬さCで、一部で割れ目ぞいに弱く風化するが、割れ目に挟在物は殆んど分布しない。
546	150.52	-	150.52m以深は岩片にφ1~3mm層緑灰色斑点が点在したり割れ目の面が緑灰色化するなど緑泥石化が認められるが粘土化などの劣化はない。	150.52	-	150.52m以深は岩片にφ1~3mm層緑灰色斑点が点在したり割れ目の面が緑灰色化するなど緑泥石化が認められるが粘土化などの劣化はない。	150.52	-	150.52m以深は径1~3mmの層緑灰色斑点が点在したり、割れ目の面が緑灰色化するなど緑泥石化が認められるが、粘土化などの劣化はない。
547	151.40	151.60	割れ目が密集し、φ10mm程度の岩片状コア化している。 割れ目の面の大半は挟在物が付着していない。	151.40	151.88	割れ目が密集し、φ10mm程度の岩片状コア化している。 割れ目の面の大半は挟在物が付着していない。	151.40	151.88	151.40~151.88m:割れ目が密集し、径10mm程度の岩片状を呈する。割れ目の面の大半に挟在物は付着しない。

H27-B-2 152.10~153.76m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	適正化された記事内容			
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
548	152.10	152.15	破砕帯(主せん断面152.11m)	152.10	152.15	破砕部(最新活動面152.11m)	152.10	152.15	152.10~152.15m:破砕部 152.10~152.11m:粘土混じり礫状部(H) 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土と直交する割れ目が多く、径5~10mmに硬さ[D]で岩片化している。にぶい橙色を呈する。幅15mm。 152.11m:粘土混じり礫状部(Hc-2) 傾斜68°で上下端とも直線的に連続。径1~2mmの石英粒。岩片を約20%程度含む。軟質。暗緑灰色を呈する。幅1mm。 152.11~152.15m:砂・粘土混じり岩片状部(H) 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。径3~5mmの岩片主体(一部径10mm)。岩片間は砂状化~粘土化した「砂・粘土混じり岩片状」を呈する。色調は緑灰(10GY 5/1)~明緑灰(7.5YR 7/2)。厚さ20~50mm/m	*用語の統一(破砕帯→破砕部) *最新活動面という用語に統一 *主せん断面は評価結果であるため記載しないこととし、下位のHc-2の粘土に変更した *破砕部内物質、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した *表現の適正化(mm) *傾記の修正(「色」の記載漏れ)	152.10~152.15m:破砕部 152.10~152.11m:粘土混じり礫状部(H) 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土と直交する割れ目が多く、径5~10mmに硬さ[D]で岩片化している。にぶい橙色を呈する。幅15mm。 152.11m:粘土混じり礫状部(Hc-2) 傾斜68°で上下端とも直線的に連続。径1~2mmの石英粒。岩片を約20%程度含む。軟質。暗緑灰色を呈する。幅1mm。 152.11~152.15m:砂・粘土混じり岩片状部(H) 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。径3~5mmの岩片主体(一部径10mm)。岩片間は砂状化~粘土化する。緑灰~明緑灰色を呈する。幅20~50mm/m	*硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
549	152.10	152.11	H 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。主せん断面と直交する割れ目が多く、径5~10mmに硬さ[D]で岩片化。色調はにぶい橙(5YR 6/3)。厚さ15m/m	152.10	152.11	H 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土と直交する割れ目が多く、径5~10mmに硬さ[D]で岩片化した粘土混じり礫状を呈する。色調はにぶい橙(5YR 6/3)。厚さ15mm やや軟質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	152.10	152.11	H 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土と直交する割れ目が多く、径5~10mmに硬さ[D]で岩片化した粘土混じり礫状を呈する。色調はにぶい橙(5YR 6/3)。厚さ15mm やや軟質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			
550	152.11	152.11	Hc-2 68°で上下端とも直線的に連続。径1~2mm/mの石英粒。岩片を約20%程度含む軟質粘土(ガウジ)。厚さ1m/m。暗緑灰色。	152.11	152.11	Hc-2 68°で上下端とも直線的に連続。径1~2mmの石英粒。岩片を約20%程度含む軟質粘土(ガウジ)。厚さ1mm。暗緑灰色。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	152.10	152.15	H 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。径3~5mmの岩片主体(一部径10mm)。岩片間は砂状化~粘土化した「砂・粘土混じり岩片状」を呈する。色調は緑灰(10GY 5/1)~明緑灰(7.5YR 7/2)。厚さ20~50mm/m	*表現の統一(ガウジ→Hc-2)に含んで表現 *原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した *表現の適正化(mm)		
551	152.11	152.15	H 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。径3~5mmの岩片主体(一部径10mm)。岩片間は砂状化~粘土化した「砂・粘土混じり岩片状」を呈する。色調は緑灰(10GY 5/1)~明緑灰(7.5YR 7/2)。厚さ20~50mm/m	152.11	152.15	H 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。径3~5mmの岩片主体(一部径10mm)。岩片間は砂状化~粘土化した「砂・粘土混じり岩片状」を呈する。色調は緑灰(10GY 5/1)~明緑灰(7.5YR 7/2)。厚さ20~50mm/m やや軟質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	152.11	152.15	H 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。径3~5mmの岩片主体(一部径10mm)。岩片間は砂状化~粘土化した「砂・粘土混じり岩片状」を呈する。色調は緑灰(10GY 5/1)~明緑灰(7.5YR 7/2)。厚さ20~50mm/m	*硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した *表現の適正化(mm) *傾記の修正(「色」の記載漏れ)		
552	152.15	153.59	CL 風化で全体が硬さ[C]。割れ目が多く、152.51m以深では互いに交差する割れ目で径10~20mm程度の岩片が主体。割れ目の一部に砂を1m/m程度は含むことがある。	152.15	153.59	CL 風化で全体が硬さ[C]。割れ目が多く、152.51m以深では30~50°程度の互いに交差する割れ目で径10~20mm程度の岩片が主体。割れ目の一部に砂を幅1mm程度含むことがある。	152.15	153.59	152.15~153.59m:CL 風化で全体が硬さ[C]で、割れ目が多く、152.51m以深では30~50°程度の互いに交差する割れ目で径10~20mm程度の岩片が主体。割れ目の一部に砂を幅1mm程度含む。			
553	152.10	152.15	(岩級区分欄)D	152.10	152.15	(岩級区分欄)CL	152.10	152.15	(岩級区分欄)CLに含める			
554	153.30	153.47	緑泥石が進み、一部の割れ目~岩芯は暗緑灰色化する。	153.32	153.43	緑泥石が進み、一部の割れ目~岩芯は暗緑灰色化する。	153.32	153.43	153.32~153.43m:緑泥石が進み、一部の割れ目~岩芯は暗緑灰色化する。			
555	153.59	154.53	D 風化で割れ目沿いに砂状化が拡大。岩片沿いの割れ目は残留する。	153.59	154.53	D 風化で割れ目沿いに砂状化が拡大。岩片沿いの割れ目は残留する。	153.59	154.53	153.59~154.53m:D 風化で割れ目沿いに砂状化が拡大。岩片沿いの割れ目は残留する。			
556	154.00	-	154.00m以深では硬さ[C]Dの岩片と硬質な砂状部からなり「砂礫状」を呈する。	154.00	-	154.00m以深では硬さ[C]Dの岩片と硬質な砂状部からなり「砂礫状」を呈する。	154.00	-	154.00m以深では硬さ[C]Dの岩片と硬質な砂状部からなり砂礫状を呈する。			
557	-	154.00	154.00m以浅は岩片量が多い。	-	-	-	-	154.00	154.00m以浅は岩片量が多い。			
558	153.60	153.76	緑泥石化が著しい。粘土化は伴わないが赤褐色の褐鉄鉱や径0.1mmサイズのセリウムを伴う。	153.60	153.76	緑泥石化が著しい。粘土化は伴わないが赤褐色の褐鉄鉱や径0.1mmサイズのセリウムを伴う。	153.60	153.76	153.60~153.76m:緑泥石化が著しい。粘土化は伴わないが、赤褐色の褐鉄鉱や径0.1mmのセリウムを伴う。			

H27-B-2 154.53~159.78m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		適正化の記事内容
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
559	154.53	154.71	破砕部(上せん断面154.58m) Hc 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。φ2~2mm石英粒。φ3~10mm粘土に硬さ「D」岩片20~30%含む軟質「軟質粘土状」層。中央の緑灰色粘土は軟質。色調は上端・明緑灰色(5G 7/1)、中央・緑灰(5G5/1)、下端・灰緑(5YR 6/2)の連続。厚さ40~50mm。	154.53	154.71	破砕部(上新活動面154.58m) Hc 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。φ2~3mm石英粒。φ3~10mm粘土に硬さ「D」岩片20~30%含む軟質「粘土質硬状」を呈する。中央の緑灰色粘土は軟質。色調は上端・明緑灰色(5G 7/1)、中央・緑灰(5G5/1)、下端・灰緑色(5YR 6/2)の連続。厚さ40~50mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・用語の統一(破砕部→破砕部) ・最新活動面という用語に統一			●154.53~154.71m:破砕部 154.53~154.58m:粘土質硬状部(Hc) 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。径2~3mmの石英粒。径3~10mmの粘土に硬さ「D」岩片を20~30%含む。やや軟質。中央の緑灰色粘土は軟質である。上端は明緑灰色。中央部は緑灰色。下端は灰緑色で連続を呈する。厚40~50mm。 154.58m:粘土状部(Hc-1) 傾斜36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。径1~2mmの石英粒をわずかに(5%以内)含む。軟質。上下端部が褐灰色。中央部が灰赤色で連続を呈する。厚5mm。 154.58~154.71m:粘土混じり岩片状部(Hc) 上端は38°で直線的。下端は65~70°で高角しながら連続。50~70°とこれに斜交する割れ目が多く、径3~5mmに細かく片状化。岩片間には幅1~3mmの明緑灰~緑灰色の軟質粘土層が、またわずかに幅1mmの軟質灰白色粘土層が分布。全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/4)~明緑灰(10G 7/1)。厚さ5mm。やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。
560	154.53	154.58	Hc 上端は36°で直線的。下端は65~70°で高角しながら連続。50~70°とこれに斜交する割れ目が多く、径3~5mmに細かく片状化。岩片間には幅1~3mmの明緑灰~緑灰色の軟質粘土層が、またわずかに幅1mmの軟質灰白色粘土層が分布。全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/4)~明緑灰(10G 7/1)。厚さ5mm。やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	154.53	154.58	Hc-1 36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~2mm石英粒をわずかに(5%以内)含む軟質粘土層(方分)。色調は上下端部が褐灰色(7.5YR 6/1)、中央が灰赤色(5YR 6/2)の連続を呈する。厚さ5mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・表現の統一(方分→Hc-1)に含んで表現 ・細粒部の直線性・連続性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm、軟質⇒軟質) ・陥記の修正(「色」の記載漏れ)			●154.53~154.71m:破砕部 154.53~154.58m:粘土質硬状部(Hc) 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。径2~3mmの石英粒。径3~10mmの粘土に硬さ「D」岩片を20~30%含む。やや軟質。中央の緑灰色粘土は軟質である。上端は明緑灰色。中央部は緑灰色。下端は灰緑色で連続を呈する。厚40~50mm。 154.58m:粘土状部(Hc-1) 傾斜36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。径1~2mmの石英粒をわずかに(5%以内)含む。軟質。上下端部が褐灰色。中央部が灰赤色で連続を呈する。厚5mm。 154.58~154.71m:粘土混じり岩片状部(Hc) 上端は38°で直線的。下端は65~70°で高角しながら連続。50~70°とこれに斜交する割れ目が多く、径3~5mmに細かく片状化する。岩片間には幅1~3mmの明緑灰~緑灰色の軟質粘土層が、またわずかに幅1mmの軟質灰白色粘土層が分布する。にぶい橙~明緑灰色を呈する。
561	154.58	154.58	Hc-1 36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~2mm石英粒をわずかに(5%以内)含む軟質粘土層(方分)。色調は上下端部が褐灰色(7.5YR 6/1)、中央が灰赤色(5YR 6/2)の連続を呈する。厚さ5mm。	154.58	154.58	Hc-1 36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~2mm石英粒をわずかに(5%以内)含む軟質粘土層(方分)。色調は上下端部が褐灰色(7.5YR 6/1)、中央が灰赤色(5YR 6/2)の連続を呈する。厚さ5mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・表現の統一(方分→Hc-1)に含んで表現 ・細粒部の直線性・連続性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm) ・陥記の修正(「色」の記載漏れ)	154.53	154.71	●154.53~154.71m:破砕部 154.53~154.58m:粘土質硬状部(Hc) 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。径2~3mmの石英粒。径3~10mmの粘土に硬さ「D」岩片を20~30%含む。やや軟質。中央の緑灰色粘土は軟質である。上端は明緑灰色。中央部は緑灰色。下端は灰緑色で連続を呈する。厚40~50mm。 154.58m:粘土状部(Hc-1) 傾斜36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。径1~2mmの石英粒をわずかに(5%以内)含む。軟質。上下端部が褐灰色。中央部が灰赤色で連続を呈する。厚5mm。 154.58~154.71m:粘土混じり岩片状部(Hc) 上端は38°で直線的。下端は65~70°で高角しながら連続。50~70°とこれに斜交する割れ目が多く、径3~5mmに細かく片状化する。岩片間には幅1~3mmの明緑灰~緑灰色の軟質粘土層が、またわずかに幅1mmの軟質灰白色粘土層が分布する。にぶい橙~明緑灰色を呈する。
562	154.58	154.71	Hc 上端は36°で直線的。下端は65~70°で高角しながら連続。50~70°とこれに斜交する割れ目が多く、径3~5mmに細かく片状化。岩片間には幅1~3mmの明緑灰~緑灰色の軟質粘土層が、またわずかに幅1mmの軟質灰白色粘土層が分布。全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/4)~明緑灰(10G 7/1)。厚さ5mm。やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	154.58	154.71	Hc 上端は36°で直線的。下端は65~70°で高角しながら連続。50~70°とこれに斜交する割れ目が多く、径3~5mmに細かく片状化。岩片間には幅1~3mmの明緑灰~緑灰色の軟質粘土層が、またわずかに幅1mmの軟質灰白色粘土層が分布。全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/4)~明緑灰(10G 7/1)。厚さ5mm。やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・硬軟、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した ・表現の適正化(mm) ・陥記の修正(「色」の記載漏れ。厚さ5mmはコアと不整合であり、上端と下端の傾斜の向きが異なる。幅を測定できないため削除した)			●154.53~154.71m:破砕部 154.53~154.58m:粘土質硬状部(Hc) 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。径2~3mmの石英粒。径3~10mmの粘土に硬さ「D」岩片を20~30%含む。やや軟質。中央の緑灰色粘土は軟質である。上端は明緑灰色。中央部は緑灰色。下端は灰緑色で連続を呈する。厚40~50mm。 154.58m:粘土状部(Hc-1) 傾斜36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。径1~2mmの石英粒をわずかに(5%以内)含む。軟質。上下端部が褐灰色。中央部が灰赤色で連続を呈する。厚5mm。 154.58~154.71m:粘土混じり岩片状部(Hc) 上端は38°で直線的。下端は65~70°で高角しながら連続。50~70°とこれに斜交する割れ目が多く、径3~5mmに細かく片状化する。岩片間には幅1~3mmの明緑灰~緑灰色の軟質粘土層が、またわずかに幅1mmの軟質灰白色粘土層が分布する。にぶい橙~明緑灰色を呈する。
563	154.71	155.00	D 軟質化著しいが、割れ目は残存する	154.71	155.00	D 軟質化著しいが、割れ目は残存する	・表現の適正化(軟質化)	154.71	155.00	154.71~155.00m:D 軟質化が著しいが、割れ目は残存する。
564	155.00	162.00	CL 割れ目沿いは暗緑灰色の緑泥石化が進む。特に、157.89~160.00mでは緑泥石化が著しく色調が緑灰色を呈し、厚さ2~20mmで砂~シルト状化する部分も認められる。	155.00	160.00	CL 割れ目沿いは暗緑灰色の緑泥石化が進む。特に、157.89~160.00mでは緑泥石化が著しく色調が緑灰色を呈し、厚さ2~20mmで砂~シルト状化する部分も認められる。	・陥記の修正(162.00⇒160.00。余部区間の削除) ・表現の適正化(泥い、mm)	155.00	160.00	155.00~160.00m:CL 割れ目沿いは暗緑灰色の緑泥石化が進む。特に、157.89~160.00mでは緑泥石化が著しく緑灰色を呈し、幅2~20mmで砂~シルト状化する部分も認められる。
565	155.00	158.00	(軟質層)3ランク	155.00	158.00	(軟質層)2ランク	・下位と比べて軟質の程度が弱いため軟質のランクを2ランクに変更した	155.00	158.00	(軟質層)2ランク
566	-	-	-	155.89	155.89	89°の割れ目(幅2~8mm)の緑泥石脈を挟存する	・高角度の緑泥石脈を伴う割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した	155.89	155.89	155.89m:89°の割れ目に幅2~8mmの緑泥石脈を挟存する。
567	156.25	156.25	75~80° 厚さ3~8mmでφ2~3mmに細片化し、岩片間に緑泥石~シルト状部を伴う。	156.25	156.25	75~80° 厚さ3~8mmでφ2~3mmに細片化し、岩片間に緑泥石~シルト状部を伴う。	・表現の適正化(mm)	156.25	156.25	156.25m:75~80°で幅3~8mmで径2~3mmに細片化し、岩片間に緑泥石~シルト状部を伴う。
568	156.72	156.72	75~80° 厚さ1~10mmの硬質な砂状部がφ1~2mmCa燻平準状部を挟んで上下方向に連続する。下端は158.24mで、下端面には傾斜と緑泥石粘土フィルムが付着する。	156.72	156.72	75~80° 厚さ1~10mmの硬質な砂状部がφ1~2mmCa燻平準状部を挟んで上下方向に連続する。下端は158.24mで、下端面には傾斜と緑泥石粘土フィルムが付着する。 156.67mには高角割れ目とほぼ直交する割れ目が見られる。同様な暗灰色の細粒部は様々な方向の割れ目に充填している。	・156.67mに高角割れ目とほぼ直交する割れ目が見られるため採る物は確証によるものではないと判断した ・暗灰色の細粒部の分布について追記した ・表現の適正化(採む、mm) ・表現の統一(燻燻⇒硬質)	156.72	156.72	156.72m:75~80°で幅1~10mmの硬質な砂状部が径1~2mmの花崗岩燻平準状部を挟んで上下方向に連続する。下端は158.24mで、下端面には傾斜と緑泥石粘土フィルムが付着する。156.67mには高角割れ目とほぼ直交する割れ目が見られる。同様な暗灰色の細粒部は様々な方向の割れ目を充填している。
569	158.00	158.20	φ5~10mm破砕硬状部と燻燻砂状部からなり砂硬状を呈する。	158.00	158.20	φ5~10mm破砕硬状部と硬質砂状部からなり砂硬状を呈する。	・深度158.00~157.00m及び157.60m付近に同様な性状の砂硬状部が認められ、それは様々な方向の割れ目に充填している。また、系統的な割れ目も存在しない。これらのことから、砂硬状部は破砕部ではないと判断し、「破砕」を削除した ・表現の適正化(mm) ・表現の統一(燻燻⇒硬質)	158.00	158.20	158.00~158.20m:径5~10mmの硬質砂状部からなり、砂硬状を呈する。
570	159.06	159.33	割れ目沿いに暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が厚さ2~20mmで分布。岩片自身も著しく暗緑灰色化し、それが160.00mまで続く。	159.06	159.33	割れ目沿いに暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が厚さ2~20mmで分布。岩片自身も著しく暗緑灰色化し、それが160.00mまで続く。	・表現の適正化(泥い、mm)	159.06	159.33	159.06~159.33m:割れ目沿いに暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が幅2~20mmで分布する。160.00mにかけては岩片も暗緑灰色化する。
571	159.78	159.78	70~80° 厚さ1~10mm方解石脈が縮小しながら連続する。	159.78	159.78	70~80° 厚さ1~10mm方解石脈が縮小しながら連続する。	・表現の適正化(mm。脈の追加)	159.78	159.78	159.78m:70~80°で幅1~10mmの方解石脈が縮小しながら連続する。

余白

H24-B14-2

H24-B14-2 0.00~8.83m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
1	0	0.66	埋土(砂層)	0.00	0.66	0.00~0.66m 埋土(砂層)	0.00	0.66	0.00~0.66m: 埋土	
2	0	3.47	細~シルト混り砂 φ3~30mmの角~歪角稜を5~10%程度混入。砂は粗~細粒砂で少量のシルトを含み不均質である。 礫種は花崗斑岩、安山岩(玄武岩)、石英で硬質。稀に風化礫が混入する。 礫の混入状況は不均質で、少ない部分と多い部分の差が認められる。	0.00	3.47	0.00~3.47m 細~シルト混り砂 φ5~30mmの角~歪角稜を5~10%程度含む。砂は粗~細粒砂で少量のシルトを含み不均質である。 礫種は花崗斑岩、安山岩(玄武岩)、石英で硬質。稀に風化礫を含む。 礫の分布は不均質で、少ない部分と多い部分と認められる。	0.00	3.47	0.00~3.47m: 細~シルト混り砂 径5~30mmの角~歪角稜を5~10%程度含む。砂は粗~細粒砂で少量のシルトを含み不均質である。礫種は花崗斑岩、安山岩(玄武岩)、石英で硬質。稀に風化礫を含む。礫の分布は不均質で、少ない部分と多い部分と認められる。	
3	3.47	3.93	コンクリート 柱状コアにて採取。硬質である。	3.47	3.93	コンクリート 柱状コアで硬質である。	3.47	3.93	3.47~3.93m: コンクリート 柱状コアで硬質である。	
4	3.93	4.28	グリ石 実岩。φ20~40mmの角稜主体。	3.93	4.28	グリ石 実岩。φ20~40mmの角稜主体。	3.93	4.28	3.93~4.28m: グリ石 径20~40mmの角稜からなる。	
5	4.28	6.66	シルト混り硬質砂 細~粗粒砂からなる不均質な砂にシルトと礫が混入。礫はφ2~30mmの歪角稜を主とし、硬含有率10~20%程度。風化礫やクワリ礫を混入。礫種は花崗斑岩が主で、稀に安山岩礫を混入する。	4.28	6.66	シルト混り硬質砂 細~粗粒砂からなる不均質な砂にシルトと礫が混入。礫はφ2~30mmの歪角稜を主とし、硬含有率10~20%程度。風化礫やクワリ礫を含む。礫種は花崗斑岩が主で、稀に安山岩礫を含む。	4.28	6.66	4.28~6.66m: シルト混り硬質砂 細~粗粒砂からなる不均質な砂にシルトと礫が混入。礫は径2~30mmの歪角稜を主とし、硬率は10~20%程度。風化礫やクワリ礫を含む。礫種は花崗斑岩が主で、稀に安山岩礫を含む。	
6	5.13	5.19	有機物混り砂を含む。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を混入。全体に若干有機質である。	5.23	5.29	有機物混り砂を含む。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を含む。全体に若干有機質である。	5.23	5.29	5.23~5.29m: 有機物混り砂を含む。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を含む。全体に若干有機質である。	
7	5.13	5.19	(色調欄) 灰褐(10YR5/1)	5.23	5.29	(色調欄) 灰褐(10YR5/1)	5.23	5.29	(色調欄) 灰褐	
8	6.66	8.39	硬質砂	-	-	-	6.66	8.39	6.66~8.39m: 硬質砂	
9	6.66	6.82	少量の粗粒砂を混入する細粒砂。少量の未分解木片を混入。	6.66	6.82	少量の粗粒砂を含む細粒砂。少量の未分解木片を含む。	6.66	6.82	6.66~6.82m: 少量の粗粒砂を含む細粒砂。少量の未分解木片を含む。	
10	6.82	8.08	細~粗粒砂からなり(7.43m以深ではシルトが混入)。全体にφ2~5mmの細礫が混入。細礫は角~歪角稜を主とする。礫種はCa、Ap及び石英からなる。	6.82	8.08	細~粗粒砂からなり(7.43m以深ではシルトが混入)。全体にφ2~5mmの細礫が混入。細礫は角~歪角稜を主とする。礫種はCa、Ap及び石英からなる。	6.82	8.08	6.82~8.08m: 細~粗粒砂からなり、7.43m以深ではシルトが混入。全体に径2~5mmの細礫が混入。細礫は角~歪角稜を主とする。礫種は花崗斑岩、アプライト、石英からなる。	
11	7.10	7.10	上部7.10m付近まで石英細礫(φ5~10mm程度)を多く混入する。炭化物も礫状に混入。	7.10	7.10	上部7.10m付近まで石英細礫(φ5~10mm程度)を多く含む。炭化物も礫状に含む。	7.10	7.10	7.10m付近まで径5~10mm程度の石英の細礫を多く含む。炭化物も礫状に含む。	
12	7.10	-	φ5~30mmの風化礫及び半風化礫混入。	7.10	8.08	φ5~30mmの風化礫及び半風化礫を含む。	7.10	8.08	7.10~8.08m: 径5~30mmの風化礫及び半風化礫を含む。	
13	7.30	7.30	7.30m付近。未分解の植物混入する。	7.30	7.30	7.30m付近。未分解の植物を含む。	7.30	7.30	7.30m付近。未分解の植物片を含む。	
14	6.82	7.43	上部はシルト質。下部は硬質となる。	6.82	7.65	上部はシルト質。下部は硬質となる。	6.82	7.65	6.82~7.65m: 上部はシルト質。下部は硬質となる。	
15	7.70	7.70	7.70m付近。炭化物を混入する。	7.70	7.70	7.70m付近。炭化物を含む。	7.70	7.70	7.70m付近。炭化物を含む。	
16	8.04	8.39	砂は石英、長石主体で細~中粒砂。均質であるが、8.30m以深から若干の有機物を混入。	8.08	8.39	砂は石英、長石主体で細~中粒砂。均質であるが、8.30m以深から若干の有機物を含む。	8.08	8.39	8.08~8.39m: 砂は石英、長石主体で細~中粒砂。均質であるが、8.30m以深は若干の有機物を含む。	
17	8.39	8.83	砂混り有機質シルト	8.39	8.83	砂混り有機質シルト	8.39	8.83	8.39~8.83m: 砂混り有機質シルト	
18	8.39	8.83	(地質名欄) 砂混り有機質シルト	8.39	8.83	(地質名欄) 砂混り有機質シルト	8.39	8.83	(地質名欄) 砂混り有機質シルト	
19	8.39	8.53	φ3cm角礫を混入。粗粒砂が主。8.40~8.45mにかけて縦方向に炭化木片が混入する。	8.39	8.53	φ1.5cmの花崗岩類の角礫を含む粗粒砂。8.40~8.45mにかけて縦方向に炭化木片を含む。	8.39	8.53	8.39~8.53m: 径1.5cmの花崗岩類の角礫を含む粗粒砂。8.40~8.45mにかけて縦方向に炭化木片を含む。	
20	8.53	8.83	45~50° 傾斜で有機物及び炭化木片が混入。所々、粗粒砂をブロック状に混入。	8.53	8.83	45~50° 傾斜で有機物及び炭化木片を含む。所々、粗粒砂をブロック状に含む。	8.53	8.83	8.53~8.83m: 傾斜45~50°で有機物及び炭化木片を含む。所々、粗粒砂をブロック状に含む。	
21	8.83	8.83	8.83m付近に粗粒砂の薄層をはさむ。	8.83	8.83	8.83m付近に粗粒砂の薄層を挟む。	8.83	8.83	8.83m付近に粗粒砂の薄層を挟む。	

H24-B14-2 8.83~13.09m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	適定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
22	8.83	9.54	有機物混じり砂	8.83	9.54	有機物混じり砂	8.83	9.54	8.83~9.54m:有機物混じり砂	-
23	8.83	9.64	(地質名欄)有機物混じり砂、砂礫	8.83	9.54	(地質名欄)有機物混じり砂	8.83	9.54	(地質名欄)有機物混じり砂	-
24	8.83	9.10	有機物混じり砂 細粒砂を主とし、石英細礫を5%未満混入。少量の炭化物を混入。	8.83	9.10	有機物混じり砂 細粒砂を主とし、石英細礫を5%未満含む。少量の炭化物を含む。	8.83	9.10	8.83~9.10m:有機物混じり砂 粗粒砂を主とし、石英細礫を5%未満含む。少量の炭化物を含む。	-
25	-	-	-	8.90	8.97	生木を含む。	8.90	8.97	8.90~8.97m:生木を含む。	-
26	9.10	9.26	有機物に富み、一部未分解の繊維が分布する。	-	-	-	9.10	9.26	9.10~9.26m:有機物に富み、一部未分解の繊維が分布する。	-
27	9.13	9.15	細粒砂(火山灰?)を薄層状にはさむ。下部は粒径やや細く、砂質シルト~シルト質砂状。	9.13	9.15	細粒砂(火山灰?)を薄層状に挟む。下部は粒径やや細く、砂質シルト~シルト質砂状。	9.13	9.15	9.13~9.15m:細粒砂を薄層状に挟む。下部は粒径やや細く、砂質シルト~シルト質砂状を呈する。	-
28	9.26	9.54	細粒砂を主とするが不均質で、φ0.5~1cmの石英角礫を混入し、粘土分を少量~中位で混入する。また、炭化物片、未分解繊維も少量混入。	9.26	9.54	細粒砂を主とするが不均質で、φ0.5~1cmの石英角礫を含む。粘土分を少量~中位で含む。また、炭化物片、未分解繊維も少量含む。	9.26	9.54	9.26~9.54m:細粒砂を主とするが不均質で、φ0.5~1cmの石英角礫を含み、粘土分を少量~中位で含む。また、炭化物片、未分解繊維も少量含む。	-
29	9.54	11.12	砂礫 φ2~50mmの花崗岩岩礫が主体。基質は少量の粘土分を混入する粗~中粒砂。	9.54	11.12	砂礫 φ2~50mmの花崗岩岩礫が主体。基質は少量の粘土分を含む粗~中粒砂。	9.54	11.12	9.54~11.12m:砂礫 径2~50mmの花崗岩岩礫が主体。基質は少量の粘土分を含む粗~中粒砂。	-
30	9.54	9.71	φ17cm玉石混入。	9.54	9.71	φ17cmの玉石を含む。	9.54	9.71	9.54~9.71m:径17cmの玉石を含む。	-
31	10.70	10.72	細礫を薄層状にはさむ。	10.70	10.72	細粒砂を薄層状に挟む。傾斜45°程度。	10.70	10.72	10.70~10.72m:細粒砂を薄層状に挟む。傾斜45°程度。	-
32	11.12	12.04	礫混じり砂 φ2~5mm石英角礫を5~10%程度混入する。砂は粗~細粒砂が主で、少量のシルト分を混入する。	11.12	12.04	礫混じり砂 φ2~5mm石英角礫を5~10%程度含む。砂は粗~細粒砂が主で、少量のシルト分を含む。	11.12	12.04	11.12~12.04m:礫混じり砂 径2~5mmの石英角礫を5~10%程度含む。砂は粗~細粒砂が主で、少量のシルト分を含む。	-
33	11.12	11.66	(地質名欄)礫混じり砂	11.12	11.66	(地質名欄)礫混じり砂	11.12	11.66	(地質名欄)礫混じり砂	-
34	11.40	11.42	幅10mmの灰白色シルトをはさむ。	11.40	11.42	幅10mmの灰白色シルトを挟む。	11.40	11.42	11.40~11.42m:幅10mmの灰白色シルトを挟む。	-
35	11.53	11.55	幅15mmの灰白色シルトをはさむ。	11.53	11.55	幅15mmの灰白色シルトを挟む。	11.53	11.55	11.53~11.55m:幅15mmの灰白色シルトを挟む。	-
36	11.66	11.79	スライム 黄褐色のシルト混じり粗粒砂からなる。	11.66	11.79	スライム 黄褐色のシルト混じり粗粒砂からなる。	11.66	11.79	11.66~11.79m:スライム 黄褐色のシルト混じり粗粒砂からなる。	-
37	11.66	11.79	(地質名欄)スライム	11.66	11.79	(地質名欄)コア欠如	11.66	11.79	(地質名欄)コア欠如	-
38	11.79	12.04	(地質名欄)礫混じり砂	11.79	12.04	(地質名欄)礫混じり砂	11.79	12.04	(地質名欄)礫混じり砂	-
39	12.04	12.69	有機物混じり砂 細砂~中砂を主とし、部分的にシルト質(有機物混じり)となる。有機物は20~30°傾斜する。	-	-	-	12.04	12.69	12.04~12.69m:有機物混じり砂 細~中砂を主とし、部分的に有機物混じりシルト質となる。有機物は傾斜20~30°を呈する。	-
40	12.04	12.69	(地質名欄)有機物混じり砂	12.04	12.69	(地質名欄)有機物混じり砂	12.04	12.69	(地質名欄)有機物混じり砂	-
41	12.13	12.13	12.13m付近、有機質シルトの薄層	12.13	12.13	12.13m付近、有機質シルトの薄層を挟む。	12.13	12.13	12.13m付近、有機質シルトの薄層を挟む。	-
42	12.37	12.41	厚さ4cmの有機質シルト	12.37	12.41	厚さ4cmの有機質シルトを挟む。	12.37	12.41	12.37~12.41m:厚さ4cmの有機質シルトを挟む。	-
43	12.65	12.67	有機質シルトを薄層状に挟む。	-	-	-	12.65	12.67	12.65~12.67m:有機質シルトを薄層状に挟む。	-
44	12.70	12.73	有機質シルトを薄層状に挟む。	-	-	-	12.70	12.73	12.70~12.73m:有機質シルトを薄層状に挟む。	-
45	12.69	13.09	有機物混じり砂質シルト シルト~中砂からなり、全体に有機物が混じる。	-	-	-	12.69	13.09	12.69~13.09m:有機物混じり砂質シルト シルト~中砂からなり、全体に有機物が混じる。	-

H24-B14-2 12.69~18.04m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			適正化した記事内容		
46	12.89	13.09	(地質名欄)有機物混じり砂質シルト	12.69	13.09	(地質名欄)有機物混じり砂質シルト	12.69	13.09	(地質名欄)有機物混じり砂質シルト	-
47	12.76	12.85	石英斑岩の亜角礫φ2~4cmが主体となる。	12.76	12.85	花崗斑岩の亜角礫φ2~4cmを含む。	12.76	12.85	12.76~12.85m:径2~4cmの花崗斑岩の亜角礫を含む。	-
48	12.85	13.09	砂混じり粘土で、下部砂質粘土状である。上部13.00m付近まで有機物を多く含むが、下側に少ないがなくなる。	-	-	-	12.85	13.09	12.85~13.09m:砂混じり粘土で、下部は砂質粘土状である。13.00m付近まで有機物を多く含むが、下部は少なくなる。	-
49	13.09	13.86	シルト混じり砂 細砂を主とする砂に、全体にシルトが混じる。	13.09	13.80	シルト混じり砂 細砂を主とする砂に、全体にシルトが混じる。	13.09	13.80	13.09~13.80m:シルト混じり砂 細砂を主とする砂に全体にシルトが混じる。	-
50	13.09	13.86	(地質名欄)シルト混じり砂	13.09	13.80	(地質名欄)シルト混じり砂	13.09	13.80	(地質名欄)シルト混じり砂	-
51	13.30	13.30	13.30m付近から色調変化	-	-	-	-	-	-	色調欄で読み取れる情報のため記載しない
52	13.17	13.60	13.17~13.60m付近:シルト+粘土分を10~20%混入する。	13.17	13.60	13.17~13.60m付近:シルト+粘土分を含む。	13.17	13.60	13.17~13.60mはシルト+粘土分を含み、13.60~13.80mは均質な細~極細粒砂からなる。	シルト混じり砂の区間の記載をまとめて書きした
53	13.40	13.40	13.40m付近:φ5~7mmの石英礫を約5%混入。	-	-	-	13.40	13.40	13.40m付近:径5~7mmの石英礫を約5%含む。	-
54	13.60	13.80	13.60~13.80m付近:粒径の均一な細~極細粒砂となる。	13.60	13.80	13.60~13.80m付近:粒径の均一な細~極細粒砂となる。	-	-	-	上記でまとめて書きしたため記載しない
55	13.86	16.24	砂礫 φ2~40mm(最大330mm)の亜角~亜円礫を主とし、所々、φ40~70mmの円~亜円礫が混入する。礫種は花崗斑岩が主体。礫含有率50~70%程度。基質はシルトの混じる不均質な砂からなる。半クサリ:硬質=1:	13.80	16.24	砂礫 φ2~40mm(最大330mm)の亜角~亜円礫を主とし、所々、φ40~70mmの円~亜円礫を含む。礫種は花崗斑岩が主体。礫含有率50~70%程度。基質はシルトの混じる不均質な砂からなる。半クサリ:硬質=1:	13.80	16.24	13.80~16.24m:砂礫 径2~40mm(最大径330mm)の亜角~亜円礫を主とし、所々、径40~70mmの円~亜円礫を含む。礫種は花崗斑岩が主体で、礫率50~70%程度。基質はシルト混じりの不均質な砂からなる。半クサリ礫と硬質礫の割合は同程度である。	-
56	13.86	16.24	(地質名欄)砂礫	13.80	16.24	(地質名欄)砂礫	13.80	16.24	(地質名欄)砂礫	-
57	15.08	15.17	Ap玉石	15.08	15.17	Gp玉石	15.08	15.17	15.08~15.17m:花崗斑岩の玉石を含む。	-
58	15.42	15.50	風化Gp玉石	-	-	-	15.42	15.50	15.42~15.50m:風化花崗斑岩の玉石を含む。	-
59	15.70	16.00	Gp岩塊	15.70	16.00	Gp岩塊	15.70	16.00	15.70~16.00m:花崗斑岩の岩塊を含む。	-
60	16.24	16.24	砂礫とGpの境界は、密着しており、 $\angle 45^\circ$ 程度を示す。	-	-	-	16.24	16.24	16.24m:砂礫と花崗斑岩の境界は密着しており、傾斜45°程度を示す。	-
61	16.24	16.24	花崗斑岩層岩質著しい。全体に軟質化する。	16.24	16.24	花崗斑岩層岩質著しい。全体に軟質化する。	-	-	-	下記の強風化・変質部の記載に含まれる内容であるため記載しない
62	16.24	16.24	Gp岩質 Gpの質品はφ3~8mmの石英、長石を主とし、φ2~5mmの黒雲母が混じる。石英は灰白色である。	16.24	60.65	花崗斑岩 Gpの質品はφ3~8mmの石英、長石を主とし、φ2~5mmの黒雲母が混じる。石英は灰白色である。	16.24	60.65	16.24~60.65m:花崗斑岩 質品は径3~8mmの石英、長石を主とし、径2~5mmの黒雲母を含む。石英は灰白色である。	-
63	16.24	18.68	16.24~18.68:強風化・変質部 全体に変質が認められ、コアは淡く赤色を帯びた灰白色を呈する。局所的にやや硬い所があるが、全体的に針貫入可能である。	16.24	18.68	16.24~18.68m:強風化・変質部 全体に変質が認められ、コアは淡く赤色を帯びた灰白色を呈する。局所的にやや硬い所があるが、全体的に針貫入可能である。	16.24	18.68	16.24~18.68m:強風化・変質部で、全体に変質が認められ、コアは淡く赤色を帯びた灰白色を呈する。局所的にやや硬い所があるが、全体的に針貫入可能である。	-
64	16.24	16.84	(色調欄)記載なし	16.24	16.84	色調欄:5YR6/1 極灰	16.24	16.84	(色調欄)極灰	-
65	16.24	16.94	$\angle 30\sim 50^\circ$ の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~巾1mm挟む。下位に比べて岩組織を現している。	16.24	16.94	$\angle 30\sim 50^\circ$ の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~幅1mm挟む。下位に比べて岩組織を現している。	16.24	16.94	16.24~16.94m:傾斜30~50°の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~幅1mm挟む。下位に比べて岩組織を現す。	-
66	16.64	18.04	(色調欄)記載なし	16.64	18.04	色調欄:5YR6/1 灰白	16.64	18.04	(色調欄)灰白	-
67	16.94	18.03	割れ目不明瞭となる。	16.94	18.04	割れ目不明瞭となる。	16.94	18.04	16.94~18.04m:割れ目が不明瞭となる。	-

H24-B14-2 17.30~22.00m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	追記した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
68	17.30	17.58	17.30	17.58	<p>※岩組織不明瞭となる。指圧で砂混じりシルト状に崩せる。</p> <p>※岩組織不明瞭となる。指圧で砂混じりシルト状に崩せる。</p>		17.30	17.58	17.30~17.58m: 原岩組織が不明瞭で、指圧で砂混じりシルト状に崩せる。	
69	18.04	18.68	18.04	18.68	<p>割れ目沿いの実質が著しく、新鮮硬質部を5~20mmの塊状に残している。取貫部は針貫入可能である。∠50~70°及び∠90°程度の割れ目跡が認められ、白色細粒物をフィルム状~巾1mm挟在する。</p> <p>割れ目沿いの実質が著しく、新鮮硬質部を5~20mmの塊状に残している。取貫部は針貫入可能である。∠50~70°及び∠90°程度の割れ目跡が認められ、白色細粒物をフィルム状~巾1mm挟在する。</p>		18.04	18.68	18.04~18.68m: 割れ目沿いの実質が著しく、硬質部を5~20mmの塊状に残す。取貫部は針貫入可能である。傾斜50~70°及び90°程度の割れ目跡に白色細粒物をフィルム状~巾1mmで挟む。	
70	18.04	18.68	18.04	18.68	<p>(割れ目状態欄)3ランク (実質欄)4ランク</p> <p>(割れ目状態欄)3ランク (実質欄)3ランク</p>		18.04	18.68	(割れ目状態欄)3ランク (実質欄)3ランク	
71	18.33	18.37	18.33	18.37	<p>実質の影響強い。上端∠40°、下端は不明瞭。</p> <p>実質の影響強い。上端∠40°、下端は不明瞭。</p>		18.33	18.37	18.33~18.37m: 強く実質する。上端40°、下端は不明瞭である。	
72	18.68	19.89	18.68	19.89	<p>実質著しく、割れ目、岩石組織をほとんど残さない。全体に指圧で変形するほど軟質である。</p> <p>実質著しく、割れ目、岩石組織が不明瞭である。全体に指圧で変形するほど軟質である。</p>		18.68	19.89	18.68~19.89m: 実質が著しく、割れ目と原岩組織が不明瞭である。全体に指圧で変形するほど軟質である。	
73	19.19	19.50	19.19	19.50	<p>巾2cm、灰白~淡黄褐色を呈する。シルト砂混じり粘土脈分布。∠75°程度、凹凸する。</p> <p>幅1~2mmのシルト砂混じり粘土脈が分布し、粘土脈に沿って幅2cm 灰白~淡黄褐色を呈する。∠75°程度、凹凸する。</p>		19.19	19.50	19.19~19.50m: 傾斜75°で弯曲して、幅1~2mmのシルト・砂混じり粘土脈が分布し、粘土脈に沿って幅2cmが灰白~淡黄褐色を呈する。	
74	19.00	19.25	19.00	19.25	<p>実質粘土は淡黄褐色を呈する。</p> <p>網目状の実質粘土は淡黄褐色を呈する。</p>		19.00	19.25	19.00~19.25m, 19.55~19.89m: 網目状の実質粘土は淡黄褐色を呈する。	記事内容が同じであるため、19.55~19.89mの記事を含めて記載した
75	19.55	19.89	19.55	19.89	<p>実質粘土は淡黄褐色を呈する。</p> <p>網目状の実質粘土は淡黄褐色を呈する。</p>		19.55	19.89		
76	19.89	20.29	19.89	20.29	<p>2~10mm程度の間隔で網目に割れ目が発達し、実質粘土をフィルム状~巾1mm程度挟在する。岩片は硬質である。</p> <p>2~10mm程度の間隔で網目に割れ目が発達し、実質粘土をフィルム状~巾1mm程度挟在する。岩片はやや軟質である。</p>		19.89	20.29	19.89~20.29m: 2~10mm程度の間隔で網目状に割れ目が発達し、実質粘土をフィルム状~巾1mmで挟む。岩片はやや軟質である。	
77	20.00	25.00	20.00	25.00	<p>(地質名欄)空欄</p> <p>(地質名欄)Gp</p>		20.00	25.00	(地質名欄)花崗斑岩	
78	20.05	20.29	-	-	<p>風化・実質作用により、全体的に軟質化している。岩片状にやや硬質な部分を残すが針貫入可能である。上端(20.05~20.09m)及び下端(20.24~20.29m)は実質著しく、砂混じりシルト状を呈する。下端は∠64°で下位と塊される。</p> <p>20.05~20.29m: 風化・実質作用により、全体に軟質化する。岩片状にやや硬質な部分を残すが針貫入可能である。20.05~20.09m間及び20.24~20.29m間には実質が著しく、砂混じりシルト状を呈する。下端は傾斜64°で下位と塊される。</p>		20.05	20.29	20.05~20.29m: 風化・実質作用により、全体に軟質化する。岩片状にやや硬質な部分を残すが針貫入可能である。20.05~20.09m間及び20.24~20.29m間には実質が著しく、砂混じりシルト状を呈する。下端は傾斜64°で下位と塊される。	
79	20.29	20.90	-	-	<p>上位と比べて風化・実質の影響弱くなるが、微細な割れ目が全体に発達し脆弱。</p> <p>20.29~20.90m: 風化・実質の影響が弱くなるが、微細な割れ目が全体に発達し脆弱である。</p>		20.29	20.90	20.29~20.90m: 風化・実質の影響が弱くなるが、微細な割れ目が全体に発達し脆弱である。	
80	20.48	20.50	20.48	20.50	<p>巾15mm、∠24°、実質粘土(砂混じり粘土)挟在。</p> <p>幅15mm、∠24°、灰白色の実質粘土(砂混じり粘土)挟在。</p>		20.48	20.50	20.48~20.84m: 傾斜24~68°で幅5~15mmの灰白色の砂混じり粘土を多少程度挟む。	記事内容が同じであるため、20.72~20.74m、20.83~20.84mの記事を含めて記載した
81	20.72	20.74	20.72	20.74	<p>巾12mm、∠40°、実質粘土(砂混じり粘土)挟在。</p> <p>幅12mm、∠40°、灰白色の実質粘土(砂混じり粘土)挟在。</p>		-	-		上記でまとめて書きためたため記載しない
82	20.83	20.84	20.83	20.84	<p>巾9~8、∠68°、実質粘土(砂混じり粘土)挟在。</p> <p>幅9~8mm、∠68°、灰白色の実質粘土(砂混じり粘土)挟在。</p>		-	-		上記でまとめて書きためたため記載しない
83	21.00	22.00	21.00	22.00	<p>(最大コア長欄)0</p> <p>(最大コア長欄)2</p>		21.00	22.00	(最大コア長欄)2	
84	21.00	21.20	21.00	21.20	<p>全体に割れ目が発達し、片状コア。ただし、21.10~21.15mは短柱状コア。</p> <p>全体に割れ目が発達し、細片状コア。ただし、21.10~21.15mは短柱状コア。</p>		21.00	21.20	21.00~21.20m: 全体に割れ目が発達し、細片状を呈する。21.10~21.15mは短柱状を呈する。	
85	21.69	21.74	21.69	21.74	<p>幅3mm、50°の灰白色粘土質砂。</p> <p>幅3mm、50°の灰白色粘土質砂を挟む。</p>		21.69	21.74	21.69~21.74m: 傾斜50°で幅3mmの灰白色粘土質砂を挟む。	
86	21.73	-	21.73	22.00	<p>21.73mからφ1~3cm程度の塊状コアとなる。</p> <p>21.73m~22.00mはφ1~3cm程度の塊状コアとなる。</p>		21.73	22.00	21.73m~22.00m: 径1~3cm程度の塊状を呈する。	

H24-B14-2 22.42~28.50m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			適正化の記事内容		
87	22.39	22.63	網状割れ目発達し、割れ目ぞいに劣化。	22.42	22.63	微細な割れ目発達し、割れ目ぞいに劣化。	22.42	22.63	22.42~22.63m:微細な割れ目が発達し、割れ目ぞいに劣化する。	-
88	22.39	22.42	(コアの形状欄) Vランク	22.39	22.42	(コアの形状欄) Vランク	22.39	22.42	(コアの形状欄) Vランク	-
89	22.39	22.63	(色調欄) 5YR7/2 明褐灰	22.42	22.63	(色調欄) 5YR7/2 明褐灰	22.42	22.63	(色調欄) 明褐灰	-
90	22.63	23.71	割れ目多く、φ1~3cmの角礫状コア。	-	-	-	22.63	23.71	22.63~23.71m:割れ目が多く、径1~3cmの角礫状を呈する。	-
91	23.71	23.85	長さ3~9cmの短柱状コア。 23.71m付近の割れ目の間に黒色粘土を挟む。	-	-	-	23.71	23.85	23.71~23.85m:長さ3~9cmの短柱状コアからなる。23.71m付近の割れ目の間に黒色粘土を挟む。	-
92	23.85	24.48	φ1~5cmの片状コアを呈する。岩片は硬質であるが、割れ目ぞいにφ0.2~1cm程度の細片化が認められる。	23.85	24.48	φ1~5cmの岩片状コアを呈する。岩片はやや硬質であるが、割れ目ぞいにφ0.2~1cm程度の細片化が認められる。	23.85	24.48	23.85~24.48m:径1~5cmの岩片状を呈する。岩片はやや硬質であるが、割れ目ぞいに径0.2~1cm程度の細片化が見られる。	-
93	24.48	25.88	φ0.5~3cm程度の塊状~片状コアを呈し、割れ目として認識できない。 コア採取時に細粒分を流失している。特に、25.50~25.77m間は、φ5mm以下のものを流失している。岩片は硬質で、風化・変質の影響少ない。	24.48	25.88	φ0.5~3cm程度の塊状~片状コアを呈し、割れ目として認識できない。 コア採取時に細粒分を流失している。特に、25.50~25.77m間は、φ5mm以下のものを流失している。岩片はやや硬質で、風化・変質の影響少ない。	24.48	25.88	24.48~25.88m:径0.5~3cm程度の塊状~片状を呈し、割れ目として認識できない。コア採取時に細粒分を流失している。特に、25.50~25.77m間は、径5mm以下のものを流失している。岩片はやや硬質で、風化・変質の影響は少ない。	-
94	25.00	26.00	(最大コア長欄) 0	25.00	26.00	(最大コア長欄) 4	25.00	26.00	(最大コア長欄) 4	-
95	25.88	26.62	土砂~塊状を呈するコア。 岩片はφ5~15mm程度のものが多く、25.88~26.12m間はφ5~50mmのものを主体とする。基質相当部はシルト混じり中粒砂様で、不規則にマンガンに汚染されている。指圧で変形するほど軟質である。	25.88	26.62	土砂~塊状を呈するコア。 岩片はφ5~15mm程度のものが多く、25.88~26.12m間はφ5~50mmのものを主体とする。基質相当部はシルト混じり中粒砂様で、不規則にマンガンに汚染されている。指圧で変形するほど軟質である。	25.88	26.62	25.88~26.62m:土砂~塊状を呈する。岩片は径5~15mm程度のものが多く、25.88~26.12m間は径5~50mmのものを主体とする。基質はシルト混じり中粒砂で、不規則にマンガンに汚染されている。指圧で変形するほど軟質である。	-
96	26.62	27.62	5~15mm程度で網状に割れ目が発達し、割れ目ぞいに岩質劣化し、土砂~片状を呈する。	26.62	27.62	5~15mm程度で網目状に割れ目が発達し、割れ目ぞいに岩質劣化し、土砂~細片状を呈する。	26.62	27.62	26.62~27.62m:5~15mm程度で網目状に割れ目が発達し、割れ目ぞいは土砂~細片状を呈する。	-
97	27.28	27.62	上位と比べて割れ目ぞいの岩質劣化は弱く、1~3cmの岩片状コアを主とする。	27.28	27.62	上位と比べて割れ目ぞいの岩質劣化は弱く、径1~3cmの岩片状コアを主とする。	27.28	27.62	27.28~27.62m:上位に比べて割れ目ぞいの岩質劣化は弱く、径1~3cmの岩片状を呈する。	-
98	27.47	27.62	∠60~65°の割れ目が1.5~3.5cm間隔で発達する。	27.47	27.62	∠60~65°の割れ目が1.5~3.5cm間隔で発達する。	27.47	27.62	27.47~27.62m:傾斜60~65°の割れ目が1.5~3.5cm間隔で発達する。	-
99	27.62	27.62	巾1~2mm、黄灰色砂混じりシルト、∠65°(見かけ右ズレ断層)→逆断層	27.62	27.62	幅1~2mm、黄灰色砂混じりシルト、∠65°(見かけ右ズレ断層)→逆断層。シルトは不連続である。シルトの周辺岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	27.62	27.62	27.62m:傾斜65°で幅1~2mmの黄灰色砂混じりシルトを不連続に挟む。シルトの周辺岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
100	27.62	27.97	網状に割れ目密集し、コアはやや脆弱となる。	-	-	-	27.62	27.97	27.62~27.97m:網状に割れ目が密集し、コアはやや脆弱となる。	-
101	27.92	28.21	∠60~75°の密着割れ目が2~10mm間隔で発達するほか、∠20~25°の割れ目が12cm間隔で発達する。後者の割れ目はマンガン汚染を伴う。	-	-	-	27.92	28.21	27.92~28.21m:傾斜60~75°の密着割れ目が2~10mm間隔で発達するほか、傾斜20~25°の割れ目が12cm間隔で発達する。後者の割れ目はマンガン汚染を伴う。	-
102	28.21	28.50	2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、コアは全体的に劣化している。	28.21	28.50	2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、コアは全体的に劣化している。	28.21	28.50	28.21~28.50m:2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、全体に劣化する。	-
103	28.36	28.45	28.36~28.45m間には、∠30°程度の微細な割れ目が1~10mm間隔で発達している。	-	-	-	28.36	28.45	28.36~28.45m:傾斜30°程度の微細な割れ目が1~10mm間隔で発達する。	-
104	28.45	28.50	岩石組織不明瞭となる。上∠55°、下∠50°の帯状カタクレーサイト?	28.45	28.50	岩石組織不明瞭となる。上端∠55°、下端∠50°の帯状カタクレーサイト。	28.45	28.50	28.45~28.50m:上端55°、下端50°で原岩組織が不明瞭となる。	-

H24-B14-2 28.50~30.44m

コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度		
		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)					
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化された記事が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
105	28.50	28.66	破砕帯(主せん断面28.50m)	28.50	28.66	破砕帯(最新活動面28.50m)	●用語の統一(破砕帯→破砕部) ●最新活動面という用語に統一	●28.50~28.66m:破砕部 28.50~28.51m:凝結しり粘土状部(Hc-2) 上端50°, 下端50°, 径5mm以下の岩片を10%程度含む。黄灰色を呈する。幅1~1.5mm。 28.51~28.53m:粘土混じり角礫状部(H) 上端50°で直線的に、下端40°で波打って連続。径10mm以下の岩片を主体で、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 28.53~28.66m:粘土混じり角礫状部(Hj) 上端40°で波打って連続。下端は不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、細粒部が分布する。にぶい黄褐色を呈する。幅120mm。
106	28.50	28.51	砂混じり粘土状破砕部(Hc-2)	28.50	28.51	●砂より隙を多く含むため破砕部内物質の名称を変更した。 ●上端下部境界、傾、色調、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。		
107	28.50	28.53	砂・細粒混じりシルト状破砕部(Hb), 巾23~30mm, 上端50°, 下端40°。 砂・細粒混じりシルト(Hb)を主として、上端に巾1~1.5mm黄白粘土(Hc-2)が認められる。	28.51	28.53	粘土混じり角礫状部(H), 幅23~30mm, 上端50°で直線的に、下端40°で波打って連続。 砂・細粒混じりシルト(Hb)を主として、上端に巾1~1.5mm黄白粘土(Hc-2)が認められる。 径10mm以下の岩片を主体で、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められる。にぶい黄褐色を呈する。	●副記の修正(28.50→28.51) ●破砕部であるため破砕部内物質の名称、破砕度区分を変更した。 ●色調、硬軟、境界面及び細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ●Hc-2についての記載は上記に区別して記載したため削除した。 ●副記の修正(単位の記事漏れ) ●表記の適正化(幅)	
108	28.53	28.66	粘土混じり角礫状(Hj), 巾12cm, 上端40°, 下端は不明瞭。 全体に岩組織不明瞭で、不規則に粘土細粒が分布する。下端は岩質劣化と推し、境界は不明瞭である。	28.53	28.66	粘土混じり角礫状(Hj), 幅12cm, 上端40°で波打って連続。下端は不明瞭。 全体に岩組織不明瞭で、不規則に粘土細粒が分布する。下端は岩質劣化と推し、境界は不明瞭である。 径5~20mmの岩片からなり、細粒部は局所的に分布する。軟質。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められる。にぶい黄褐色を呈する。	●上端境界の性状、色調、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した。 ●表記の適正化(幅)	
109	28.51	28.53	(破砕度区分)Hb	28.51	28.53	(破砕度区分)Hj	●上記の記事に合わせて破砕度区分を変更した	
110	28.66	28.71	土砂状を呈する岩質劣化部。	-	-	-		
111	28.71	29.45	40°及び60°の割れ目が2~6cmで発達、交錯し、コアは片状を呈する。割れ目にはしばしばマンガンを伴う。	28.71	29.45	40°及び60°の割れ目が2~6cm間隔で発達、交錯し、コアは片状を呈する。割れ目にはしばしばマンガンを伴う。	●副記の修正(単位・間隔)の記事漏れ。 ●表記の適正化(片状→岩片状)	
112	28.83	29.16	28.83~29.16m間は上下位と比べて硬質となる。	28.83	29.16	28.83~29.16m間は上下位と比べてやや硬質となる。	●コアに合わせて硬軟を変更した	
113	29.16	29.45	29.16~29.45m間は風化・実質進行し、岩質劣化し脆弱。	-	-	-		
114	29.45	29.91	岩組織・割れ目不明瞭となる。計測可能な指圧で容易に崩せる。	29.45	29.91	原岩組織・割れ目不明瞭となる。計測可能な指圧で容易に崩せる。	●表記の適正化(原岩組織)	
115	29.76	29.81	硬質部を硬状に含む。	-	-	-		
116	29.81	29.87	マンガン汚染拡がる。	-	-	-		
117	29.91	30.21	片状コア。	29.91	30.21	細片状コア。	●表記の適正化(片状→細片状)	
118	29.91	30.21	40°~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達、割れ目に沿って岩組織が不明瞭となることもある。コアは全体に褐色を帯びる。	29.91	30.21	40°~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達、割れ目に沿って原岩組織が不明瞭となることもある。コアは全体に褐色を帯びる。	●表記の適正化(原岩組織)	
119	30.13	30.13	巾1mm、40°、黄白砂混じり粘土状。上盤側に巾10~15mmの岩質劣化部を伴う。	30.13	30.13	幅1mm、40°、黄褐色砂混じり粘土状。上盤側に幅10~15mmの細片状部を伴う。	●黄白という色名は土色に近い名称であるため色調名を変更した。 ●上盤側に必ずしも上盤とは限らないため上盤に変更した。 ●表記の適正化(幅) ●副記の修正(色)の記事漏れ ●岩質劣化の状況を具体的に記載した	
120	30.21	32.40	40°~50°の割れ目が3~15cm間隔で発達し、柱状コアを主体とする。割れ目沿いに黄褐色化、酸化汚染は認められるが、岩質は硬質である。	30.21	32.40	40°~50°の割れ目が3~15cm間隔で発達し、柱状コアを主体とする。割れ目沿いに黄褐色化、酸化汚染は認められるが、岩質は硬質である。	●コアに合わせて硬軟を変更した	
121	30.21	31.27	(岩級区分)CL	30.21	31.27	(岩級区分)CM	●上記の区分変更に伴い、岩級を変更した	
122	30.28	30.44	長さ16cmの柱状コア。	-	-	-		
							●記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない ●記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない ●記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない	